

令和7年度 第1回 国分寺市史跡武蔵国分寺跡保存整備委員会

日 時 令和7年7月18日（金）午前9時30分～

場 所 もとまち地域センター1階 集会室

会 議 次 第

- 1 教育長挨拶
- 2 委嘱状伝達
- 3 事務局報告
- 4 開会
- 5 報告事項
 - (1) 史跡の公有化・維持管理について 資料1
 - (2) 史跡地内トイレの改修について 資料2
 - (3) 史跡に関する普及・活用事業について 資料3
 - (4) 令和7年度史跡保存整備工事について 資料4
- 6 審議事項
 - (1) 北方・推定中院地区整備工事の調整設計について 資料5
- 7 その他
- 8 現地視察
- 9 閉会

配布資料一覧

- ・ 令和 7 年度第 1 回国分寺市史跡武蔵国分寺跡保存整備委員会会議次第
- ・ 令和 6 年度第 3 回国分寺市史跡武蔵国分寺跡保存整備委員会議事録
- ・ 委員名簿
- ・ 武蔵国分寺跡資料館だより第 57 号
- ・ 武蔵国分寺跡資料館 夏季企画展「学校ができたー昭和の記憶と国分寺市」チラシ

資料 1-1	令和 7 年度史跡武蔵国分寺跡附東山道武蔵路跡公有化予定図（地番図）
資料 1-2	史跡地の維持管理について
資料 2-1	史跡地内トイレの改修について
資料 2-2	史跡地内トイレ設計図
資料 3-1	「子ども歴史クイズラリー」・「拓本体験」実施報告
資料 3-2	武蔵国分寺跡資料館 夏休みイベント情報 2025
資料 3-3	史跡武蔵国分寺跡周辺 校外学習事業について
資料 4-1	令和 7 年度史跡保存整備工事について
資料 4-2	史跡武蔵国分寺跡整備範囲案内図
資料 5-1	北方・推定中院地区調整設計について
資料 5-2	築地塀復元の素材について
資料 5-3	SB39 掘立柱建物の表示について
資料 5-4	植栽の調整について
資料 5-5	令和 2 年度北方地区実施設計図（抜粋）
資料 5-6	第 48 回東京都遺跡調査・研究発表会資料（抜粋）

令和6年度第3回国分寺市史跡武蔵国分寺跡保存整備委員会議事録

日 時 令和7年3月26日(水) 午後1時30分～
場 所 国分寺市役所 502 会議室

整備委員会委員(8名)

委 員 長	坂 誥 秀 一
副委員長	福 嶋 司
委 員	酒 井 清 治
委 員	佐 藤 信
委 員	鈴 木 誠
委 員	野 澤 康
委 員	小 柳 博 行
委 員	松 井 敏 也

オブザーバー(3名)

文化庁文化財第二課 主任文化財調査官	渋 谷 啓 一
東京都教育庁地域教育支援部管理課 課長代理	鈴 木 徳 子
東京都教育長地域教育支援部管理課	野 口 舞

出席職員(7名)

教育長	古 屋 真 宏
ふるさと文化財課 課長	新 出 尚 三
〃 文化財普及担当係長	勝 山 俊 也
〃 史跡係長	寺 前 めぐみ
〃 史跡係	野 田 悠 真
〃 公園緑地係長	井 上 健 次
〃 公園緑地係	高 橋 彩

文化財保存計画協会(コンサル)

<会議次第>

1. 教育長挨拶
2. 開会
3. 報告事項

(1) 令和6年度史跡保存整備工事の完了について

資料 1

(2) 史跡地内トイレの改修及び事前遺構確認調査について

資料 2-1

資料 2-2

資料 2-3

4. その他
5. 現地視察
6. 閉会

1. 教育長挨拶

新出課長 こんにちは。本日はお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。事務局を務めさせていただきます、ふるさと文化財課の新出でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

では開会に先立ちまして、国分寺市教育委員会古屋教育長よりご挨拶を申し上げます。

教育長 改めましてこんにちは。本日は大変お忙しい中、第3回の史跡保存整備委員会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。

国分寺市ではやっと念願の新庁舎が完成いたしまして、本日お越しいただいたところでございます。狭い部屋しか取れませんが、大変申し訳なく思っているところでございます。お越しいただいた際に1階のエントランスには七重塔の模型が展示されていたと思いますが、その周りには瓦を敷き詰めさせていただいており、あらは史跡周辺から採取された実物でございます。そのように国分寺の特色も示させていただいているところでございます。まだ御覧になっていない方はぜひ後ほど御覧いただけたら幸いです。

さて、本日の史跡整備委員会でございますけれども、史跡整備に関します令和6年度の事業報告、そして史跡地内にご 있습니다トイレにつきましての進捗状況をご報告させていただきたいと思っております。特に今年度の南門地区の参道部分の整備工事につきましては、令和4年度から行っている南門地区の整備工事の中心的な位置づけとなっており、史跡地の顔ともいわれる部分の整備でございました。参道部分がきれいに完成したところでございまして、3月19日に竣工検査が終了いたしまして、21日から供用開始となったところでございます。3月21日には桜のライトアップが、まだ咲いてはおりませんでしたけれどもスタートしたところでございまして、これから多分お花見のお客様もたくさんいらっしゃっていただけるのかなと思っております。この委員会が終わりましたら、整備地にお越しいただいて御覧いただく予定になっておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

また、以前から多くのご要望を頂いておりましたトイレ改修につきまして調整も進んでおるところでございます。目指すところである、史跡地を守りつつ来訪者にとって居心地のよい歴史公園に一步一步近づいてまいりたいと考えてございます。この事業につきましてはこれまで長年取り組んできたところでございます。数多くのご支援、またご協力を頂いている方に感謝するとともに、貴重な文化財である史跡地を預かっている自治体として着実に事業を進めていくことが責務であると考えているところでございます。

本日も忌憚のないご意見を頂戴できたら幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局報告

新出課長 ありがとうございました。

本日の委員会でございますが、委員定数 10 名のところ 8 名の委員の皆様に出席
いただいております。したがって、国分寺市史跡武蔵国分寺跡保存整備委員
会設置条例第 6 条に基づきまして、本日の会議は成立してございます。

本日はオブザーバーとして文化庁から渋谷主任文化財調査官、東京都教育庁地域
教育支援部から鈴木課長代理と野口主事にご出席いただいております。また事務局
といたしましては、工事担当課として緑と公園課から井上係長と高橋係員が出席し
ております。

では、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

あと傍聴者が 3 人いらっしゃっておりますので、ご報告申し上げます。

続きまして資料の確認と、本日の流れを簡単に説明させていただきます。机上に
置かせていただいた資料でございますが、まず最初に次第がございます。続きまし
て、前回 8 月 29 日に行いました第 2 回の委員会の議事録。それから資料の 1 とし
て、今年度行った武蔵国分寺跡保存整備事業の資料、概要です。それから資料の 2
－ 1、2－ 2、2－ 3 として、史跡地のトイレ改修の概要や発掘調査の結果等の資
料を配付させていただいております。そのほか参考までにですが、この庁舎の隣
の東京都公文書館で現在企画展を行っておりまして、そのチラシを 2 枚ほど配布さ
せていただいております。ご都合、お時間があるときにお立ち寄りいただければ
と思ひまして、ご通知申し上げます。

本日の流れでございますけれども、報告事項は 2 件でございます。それから報告
が終了後、委員の皆様と令和 6 年度工事対象地の視察を予定してございます。現地
を御覧いただきながら整備内容のご説明をさせていただきまして、本委員会につ
きましては視察終了をもって解散とさせていただきます。

それでは坂詰委員長、ここから進行のほどよろしくお願いいたします。

2. 開会

坂詰委員長 どうも、皆さんお忙しいところご苦労さまでございます。ようやく整備工事も落
ち着いてまいりましたので、本日開催いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは今年度第 3 回目の委員会を始めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。
第 2 回の委員会議事録につきましては、お手元に置いてあります委員
会議事録でございますが、この議事録の内容につきましては慣例によりまして、目
を通していただきまして問題点、疑問点などがありましたら事務局へお申し出いた
だくと。その上で私が拝見しまして対応させていただくことにしたいと思います。

ど、よろしゅうございましょうか。

では、そのようにさせていただきます。事務局もそのようにお含みください。お願いいたします。

3. 報告事項

(1) 令和6年度史跡保存整備工事の完了について

坂詰委員長 それでは報告事項に入りたいと思います。本日は2件でございます。協議事項はございません。

報告事項に早速入らせていただきます。報告事項の第1でございます。「令和6年度史跡保存整備工事の完了について」でございます。資料1をご参照いただきたいと思います。では、お願いいたします。

野田係員 史跡係の野田です。よろしくお願いいたします。

それでは、資料1「令和6年度史跡武蔵国分寺跡保存整備工事の完了について」を御覧ください。資料にもございますように、西武造園株式会社によって9月6日から本来であれば2月28日だったところを、大型立体地形模型との工程調整によって、3月14日まで工期を延長しております。先ほど教育長からもありましたように、3月14日に工事を完了して、3月19日に検査員の検査を受けて合格を頂戴しております。令和6年度は、南門地区3年目の工事としてやっております。1年目は樹木伐採による景観の整え、2年目は市立第四中学校側の約6,700㎡の範囲にて施工を行いました。3年目となる今年度は、南門地区の顔となるエントランス部分、約4,500㎡の整備を行いました。

工事風景の写真をご用意しましたので御覧ください。まず参道部でございますが、遺跡保護のため下水管が埋設されていないことから、水の逃げ場を作るための雨水浸透施設を設置しております。参道部分の舗装は、洗い出しの工法であるショットブラストを用いております。関東地方の解体施設から出た赤色の瓦を砕いて、コンクリートと混ぜた後、金属の鉄球を高速でぶつけ、表面に赤色を露出させているそうです。木橋・南門の柱に関しましては、奈良県産のヒノキを使用しています。また、今回の工事の一番のアピールポイントとなります名称標識・大型立体地形模型に関しましては、後ほど現地にてご説明したいと思います。また、前回委員会で福嶋先生・鈴木先生よりご指摘いただきました維持・管理ですが、公園管理の文化財保護係と連携を密にし、作って終わりとならないよう努めてまいります。

報告事項としては以上となります。

坂詰委員長 ご苦労さまです。長らく指導いただいていたいました工事がようやく完了いたしました。本日現地を御覧いただけたと思います。それに先立ちまして、ただいまの報告がございました。前回福嶋先生、鈴木先生から重要なご指摘を頂きましたが、それはクリアしているという報告でございました。よろしゅうございましょうか。

鈴木委員 1つすみません。2ページの左上が雨水浸透施設という、多分これは実際に現地に行っても見られないと思うので、これはどれのことをいっているのですか。どういう施設を工夫していただいたのだらう。写真で分かるかしら。

野田係員 写真でいうと、参道部分の両サイドの東と西の今土が露出している部分に浸透層を入れて、その上にまた北浜という砂利を敷いて施工しております。

鈴木委員 雨水浸透施設は砂利みたいなものを入れて暗渠にしているわけですか。

野田係員 そうです。下の土を転圧し、その上に単粒度碎石を置いて、その上に浸透トレンチの布のようなものを敷いて、その上に北浜というきれいな石を敷いております。

鈴木委員 流量計算だと、園内のやつは大体そこで雨水排出量は地下浸透できると。

野田係員 はい、構造上は問題ないと伺っております。

鈴木委員 こういうことが今とても問題になっており、とても良いことだと思う。アピールしないと見えないものですから。ぜひ何かのときにアピールしていただきたいと。

福島副委員長 現地で完成したのを確認して、皆でまた意見が出せたらいいなと思っています。

坂詰委員長 他にございますか。後は現地で指摘いただくことがあればご指摘いただければと思います。

では、報告事項2番目に入りたいと思います。「史跡地内トイレの改修及び事前遺構確認調査について」、事務局お願いいたします。

（２）史跡地内トイレの改修及び事前遺構確認調査について

勝山係長 史跡地のトイレ改修につきまして、ご報告いたします。お手元の資料2-1を御覧ください。トイレ用地につきましては、従前より使用貸借にてお借りしておりましたが、お借りする土地を新たに増加させる計画について土地所有者と協議し、ご快諾を頂き、使用貸借契約を締結しました。このことにより、約171㎡から約376㎡に拡大することができました。

資料表面の上段部分の左側が既存の土地の使用状況で、右側は新たに借用した土地を加えた図面でございます。面積が増えたことにより、敷地への出入りの導線や駐車場用地の確保など利便性を高められる環境となりました。

また、この委員会でもご指摘のございました便槽数等につきましては、事業社に対し意見を伝え、結果、資料下段のとおり男子小便器1基増加、女子個室1室を増加、男女別手洗いを1基ずつ増加することを図ることができました。

工事スケジュールについては、前回のご報告後、今年度事業実施をするために参考見積りとして2つの事業者から頂いておりましたが、それぞれの事業者から、辞退の申し出がございました。理由について伺ったところ、今年度内に公共事業を始め大型事業を請け負うことになり人員の不足、また仮に請け負った場合、人員が少ない状況での作業が工期を遵守できないというものでございました。

これにより、新たにリース契約でトイレの建替工事を実施いただける事業者を探

すこととなりました。2社から同意を得ることができ、設計や工事期間など事業内容の調整を進め、昨年12月にこのリース契約工事契約の入札に至ったところでしたが、入札不調で契約業者が決まらない結果となってしまいました。今回は、指名競争入札として、事業者を複数選定し当日の開札に臨んだところでしたが、応札した事業社が1社だったため入札不調となってしまいました。

契約担当課と協議の上、改めて契約締結するために工期の見直しを図り、8月末の竣工、9月よりトイレの使用ができる計画で再度入札を執り行う準備を進め、2月28日無事に契約事業者が決定しました。事業社は富士産業株式会社東京支店でございます。現在この事業社と、打ち合せ等作業を進めているところでございます。進捗につきましては、今後この委員会においてご報告申し上げます。

なお、当該地が史跡地であることから、これらの建築事業の事務作業に先行して予定地の事前遺構調査を行いました。これにつきましては、史跡系の野田よりご報告申し上げます。

私の説明は以上です。

野田係員 それでは、事前遺構確認調査についてご説明いたします。お手元の資料2-2が図面、2-3が写真図版となっております。2-2の図面上の赤枠で示した範囲が調査対象地（トイレ敷地）で、2-2の緑色の四角が発掘調査を実施した調査区となり、対象地は僧寺中軸線上に位置しております。検出遺構としては、現況の地表面より1.2m下で近世以降に投棄されたと考えられる瓦屋根が、1.5m下で全体的に硬質の面を検出し、推定薬師道と思われます。さらに1.8m下で古代の黄白色粘土範囲、特殊遺構S X376とピット1基を検出し、遺物の出土量はテンバコ15箱分となっております。特筆すべきは、瓦だめに投棄された瓦はそのほとんどが平瓦であり、二次被熱を受けた痕跡が見受けられる点です。

また、塑像と思われる破片が4点確認され、金堂のものか七重塔のものか定かではありませんが、被熱を受けたことにより通常では残らないものが出土したということで、建物が火災を受けたこと裏づけるの資料のひとつになるかと考えられます。塑像としては上野国分寺跡、遠江国分寺跡に続く全国3例目の発見かと思われます。しかし、どの遺構においても明確に時代を特定できる遺物は発見されず、最終工事における掘削は最大G L-1.2m以内を目標とし、掘削の際には常時ふるさと文化財課職員の立ち会いを実施し、適切な遺跡の保存に努めていく所存です。

報告は以上です。

坂詰委員長 ご苦労さまでした。ただいま史跡地内のトイレ改修について説明がありました。長年このトイレの問題については論議してきた、また大きなご心配を頂いてきた問題でございますが、おかげさまで工事も順調に進めるようになってきたというご報告でございました。何かこの件についてご質問、ご意見はございますでしょうか。

佐藤委員 今の出土した被熱した塑像の破片というのは、塑像のどのような部分かは分かるの

でしょうか。また、これは一番近いのは講堂に当たるのでしょうか。あるいは西側には、これは僧房ですよ。この南北東のは。

野田係員 そうですね。

佐藤委員 塑像になると普通は塔にあるような気もするけど、何かそういう研究成果はあるのでしょうか。

野田係員 まだ整理段階の途中でございますので、水洗いも終わったばかりでして、まだこの部位かの特定はできていない状況です。出土位置に関しましては、近世以降の、恐らく地主さんだから畑で農作物をやられる際に出てきたものを邪魔だからといって1つの場所に集めたうちの瓦だめの1つだと思いますので、どこから出たかはもう特定できない状況です。

佐藤委員 あまり遠くに運んでということはないような気がするのですが、推測はしておいたほうがいいかなというのと、平瓦しか出ないというお話でしたよね。これは何か理由があるのでしょうか。丸瓦も出ないし、軒瓦も出ないのですか。

野田係員 軒平瓦が2点ほど、軒丸瓦が1点です。そのうちの1点ずつを写真図版に組み込ませていただいております。最後の4ページ目です。

佐藤委員 あとは平瓦ばかりということですか。

野田係員 そうです。基本的にほとんどが平瓦です。

佐藤委員 丹塗りがアゴについていますよね。これは朱墨書なのですか。

野田係員 はい。朱墨書です。

佐藤委員 建物の丹塗りではないですか。

野田係員 ではないです。

佐藤委員 これは、想像はしておいたほうがいい気がしました。あと、この推定薬師道という、当時の中軸線に沿っていますよね。それは大事な感じもするのですが。

酒井委員 確認していいですか。

佐藤委員 すみません。どうぞ。

酒井委員 資料 2-3 の1頁右側の下から2番目にS X376 検出状況とありますが、ここに瓦がたくさん断面にありますね。これが薬師道の面と考えてよろしいでしょうか。

野田係員 こちらが薬師道の上にあった瓦だめの断面です。

酒井委員 そうなのですか。以前、現地で見たときにすごく水平になっている状況で、そして平瓦の凹面が下を向いているのがすごく多くて、何かそこに敷いた印象を受けたのです。それがいつの時代かというのも問題なのですが、当然ここは北方建物に行くところで、はけの部分で水がたくさん出てきます。ここに黄色い土がたくさん出ていますが、そこを埋め立ててこういう道を作っているような感じが正直したのです。だから、このところで要するに時期も問題だし、北方建物に行く、先ほど佐藤先生の中軸線という話も非常に重要なところだと思うので、ぜひこのところの整理を正確にやっていただければと思っています。

佐藤委員 金堂と講堂の間も瓦敷きの道がありましたよね。そういうものだとすると、中軸線で折り返せば道幅が分かるような気がするのですが。講堂から北方建物に向かう。

野田係員 今回判明した推定薬師道の道幅、この資料2-2の図面になるのですが、このナンバー43、48、49と水色の丸で囲んである部分が平成27年から28年に立会調査を実施した下水管の埋設工事になるのですが、こちらの3か所でも推定薬師道と考えられる硬質面が検出されておりまして、今回の調査区の幅と考えると推定薬師道の幅は大体5.0メートル以上になることは判明しました。

佐藤委員 ナンバー43が、結構離れていますよね。

野田係員 そちらが推定薬師道の。

佐藤委員 薬師道か。中軸線は48と49。

野田係員 が、近いです。

佐藤委員 その付近で今回も硬質面で見つかったという。5mということはないと思うのだよね。6mではないかなと思います。

野田係員 調査で開けられる面積がかなり狭かったところなので、実際の道幅は不明ということです。

佐藤委員 これは、その硬質面とか瓦の。瓦は全部開けてしまったのでしょうか。

野田係員 そうです。瓦だめとして認定した瓦のものは開けています。

佐藤委員 路面の瓦敷きはどうでしょうか。

野田係員 瓦敷きは、今回取れるものだけは測量して点として上げております。

佐藤委員 路面は、ここを溜枳にするのであれば、そこを掘るのは避けたほうがいい気がしますけど。壊してしまうのは。

野田係員 なので、今回トイレの改修につきましては1.2mまでが表土と耕作土でございまして、そこまでで収める形でやっていただこうと思っております。

佐藤委員 ついでに、この場所はお借りしている土地ですよね。

野田係員 はい。

佐藤委員 道幅は僧寺中軸線上の北方建物に向かう道の推定幅を整備して可視化するということができればいいなと少し思いました。

坂詰委員長 よろしゅうございますか。

佐藤委員 はい。

坂詰委員長 今いろいろご指摘いただきましたけれども、この件については発掘資料をこれから整理するということでございますので、整理を慎重にお願いしたいと思います。

この件につきましては佐藤先生のご指摘がございましたが、塑像のかけらは講堂の西の方からかなり出ていますので、その流れではないかなというところ。それからもう1点、この四つ石と称するところに講堂を南北につないでいく線がかつて出てまいりました。はっきりしなかったのですが、そういうところはどうなのか。瓦だめという表現がありました。講堂の北側はかなり工作物によって荒れておりまし

て、瓦だめが頻繁にございます。特にこの地点は明治時代以降、いろいろ地主さん、あるいは外部から来た方が、瓦目当てで掘ったのが集中している地域。そういう問題も含めていずれ整理してもらいたいと思っております。講堂の上面を掘りましたときも薬師道かと思われるもの若干出ましたが、しっかりした道路面というのはなかったような気がいたしております。

いずれにいたしましても、今後、資料の結果を整理していただきたいと思っております。

よろしゅうございましょうか。

松井委員 塑像の写真なのですが、1点だけ下に写ったアングル。これは表面に白い物が見えるのですが、これは瓦礫とかそういうものですか。

野田係員 これは最初セン（埴）かとも思ったのですが、胎土と様子が違うということで、塑像の破片の1片ではないかとも考えています。白く写っているのは写真の光の都合でもあるのですが、実際も確かに少しクリーム色というイメージではおります。ただ、何かといわれると全く分からないという感じです。

松井委員 今後もまとめていかれる中で塑像の解析なりは考えておられるのですか。

野田係員 物によっては植物片が大量に入っているものもありましたので、関係機関と協力して報告書の作成は進めたいと考えております。

坂詰委員長 その周囲からも壁の一部と思われるようなものも点々と出てきていますので、そういうものとの関連も、今後慎重にやってもらえると。では、分析やその他の点はひとつよろしく願いいたします。

4. その他

坂詰委員長 それでは報告事項2件をお話いただきました。この2件につきまして、それぞれ今まで委員会では皆さんのご意見も賜りまして、ようやくここまできたところがございます。このような2件の討議を踏まえまして、今日文化庁から渋谷調査官に来ていただいております、渋谷さんいかがでしょうか。

渋谷調査官 文化庁の渋谷でございます。

まず報告1番として南門地区の、本日これから現地で拝見させていただきますけれども、先ほども話していました雨水浸透設備等、目に見えないところでかなり工夫されているということでございますので、そういったところをぜひ整備の報告書等にまとめていただいて、広くこういう事例でやっているというところを報告していただくと、ほかの全国各地の史跡整備の参考になると思います。武蔵国分寺は非常に規模も大きくて、史跡整備の1つのお手本になるところでもございますので、そういったところも報告書で示していただけたらと思っております。

また、トイレ改修に先立つ調査も、今いろいろと先生方からお話がありましたけれども、こちらもしっかりと調査結果について報告書にまとめていただいて、様々

な中心伽藍の近くでもございますので。トイレを作る際もやはり現状変更等で非常に慎重にすべきところでもございますし、そういったところでの調査の成果は非常に貴重な調査成果になるかと思っておりますので、こちらもしっかりと報告していただけたらと思っています。

私からは以上でございます。

坂詰委員長 ありがとうございます。東京都はいかがでしょう。

鈴木課長代理 お忙しいところ、皆様ありがとうございます。

私も今回南門のところをこれから拝見するのを非常に楽しみにしております。後やはりトイレの改修のところでなかなか面白いものが出てきたり、今坂詰先生のお話もありましたけれども、やはり近世から瓦集めブームみたいなものが来て、近代でも掘って瓦だめがあちこちにあるみたいな。そういうことも含めて、せっかくトイレ、壁面とかもあると思いますので、この辺りからこういうものが出ているとか、結構文化的に「瓦拾い」というのは、それが広まってしまうと困るんですけど、そういう側面もあったみたいなことを少しアピールしていただくと、文化史的にも面白いのかなと思いますので、少しご検討頂ければありがたいかなと思います。

以上です。

坂詰委員長 どうもありがとうございます。

ただいま渋谷調査官、鈴木さんのお話がありましたように、面積が狭くて中枢の建物は外れておりますが、部分的には非常に重要な場所という認識がございますので、報告書を手を抜かないようにしてひとつまとめてもらいたいと思います。特にこのトイレの改修につきましては、お寺さん、国分寺さんに多大な協力を頂いておりますので、ぜひ今後の史跡整備にご協力を頂くという面もありますので、慎重に報告書を作っていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

事務局、以上でよろしゅうございましょうか。何かありますか。

新出課長 こちらからは、報告事項については特にはありません。

坂詰委員長 それでは、先生方のご指導、それから調査官、東京都のご指摘を十分に踏まえて、報告書をひとつよろしく願います。それではお願いいたします。

新出課長 本日はありがとうございました。本ご指摘を踏まえまして対応させていただきたいと思います。

令和7年度のスケジュールにつきまして、まだ日程は決まっておりますが、今年度と同様に3回程度の開催をさせていただければと考えてございます。詳細につきましては後ほど事務局からご連絡させていただきます。

それから私事ではございますけれども、3年間務めてまいりましたふるさと文化財課長を、ここで役職定年をすることになりまして、後任の内示も昨日ありました。3年間お世話になり、ありがとうございました。私が来た3年前は史跡指定100周年があって、そしてこの南門の整備に関われたことが私の誇りにもなりました。皆

様のご支援、ご協力のおかげでございます。ありがとうございました。後任でございますけれども、元々ふるさと文化財課で係長を、そして今現在市史編さん室長をやっております依田が4月1日より参りますので、課題、宿題等は引き継いでいきたいと思っております。

もう1つ、係長の寺前もここで異動という形になります。では少し寺前から。

寺前係長 ふるさと文化財課に戻ってまいりまして2年間経ちましたが、この度なんと市史編さん室係長を拝命し、そちらに異動することになりました。文化財との繋がりはいずれからも続いていくと思いますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

坂詰委員長 お2人、ご苦労さまでございました。ようやく慣れてきたと思ったら代わるのですね。残念ですけど、いろいろな立場でご協力お願いしたいと思います。

それでは、以上をもちまして一旦休会させていただきます。現地の視察を行いますので、ひとつよろしく願いしたいと思います。

5. 視察

6. 閉会

国分寺市史跡武蔵国分寺跡保存整備委員会委員名簿

任 期：No.1 令和7年5月26日から令和8年7月7日まで
No.2～10 令和6年7月8日から令和8年7月7日まで

No.	氏 名	住所	委員区分	略歴等
1	ながさわ あきら 永澤 章	国分寺市	(1)号委員	武蔵国分寺史跡地地主会会長
2	くぼた ひさし 久保田 尚	ふじみ野市	(1)号委員	埼玉大学名誉教授 日本大学客員教授 (交通計画)
3	さかい きよじ 酒井 清治	松戸市	(1)号委員	駒澤大学名誉教授 (考古学)
4	さとう まこと 佐藤 信	港区	(1)号委員	東京大学名誉教授 (古代史学)
5	すずき まこと 鈴木 誠	足立区	(1)号委員	東京農業大学グリーンアカデミー校長 東京農業大学名誉教授 (造園学)
6	のざわ やすし 野澤 康	新宿区	(1)号委員	工学院大学建築学部まちづくり学科教授 (都市計画)
7	ふじい けいすけ 藤井 恵介	杉並区	(1)号委員	東京大学名誉教授 (建築史学)
8	まつい としや 松井 敏也	流山市	(1)号委員	筑波大学芸術系教授 (保存科学)
9	さかづめ ひでいち 坂詰 秀一	国分寺市	(2)号委員	文化財保護審議会会長 立正大学特別栄誉教授 元立正大学学長 (考古学)
10	ふくしま つかさ 福嶋 司	国分寺市	(2)号委員	文化財保護審議会副会長 東京農工大学名誉教授 (植物学)

国分寺市史跡武蔵国分寺跡保存整備委員会設置条例第3条第1項第1号＝識見を有する者、第2号＝国分寺市文化財保護審議会委員

定数：10人以内（国分寺市史跡武蔵国分寺跡保存整備委員会設置条例）



令和7年度夏季企画展 「学校ができた — 昭和の記憶と国分寺市 —」

学校の姿が木造からコンクリートに大きく変わった昭和の時代。皆さんのご家族や地域の人々にとって、学校の誕生はどのような意味を持っていたのでしょうか。

昭和20年代後半から40年代にかけて、急激な児童数の増加に対応するため、わずか3校だった小学校は、20年の間に10校へと広がりました。それぞれの学校では、体育館、プール、給食室などの施設が充実していきました。学校は学びの場であるだけでなく、地域の人々が集う大切な場所としても活用されました。消防団の出初式、活気あふれる体育祭、青空市場や成人式、さらにはバレーボール大会やラジオ体操といった多彩な集いが、世代を超えたコミュニティの絆を育んできました。また、国分寺市の6校の校歌は、地域に暮らした著名な作曲家の信時潔が手がけたもので、今なお多くの人々の心に響いています。

今回の企画展では、昭和の学校の姿を、貴重な記録写真や当時の資料を通して、学校と地域がいかに共に歩ん

できたか、その温かい記憶を皆さんにお届けします。かつての子どもたちが通った懐かしさも活気あふれる日々を感じていただける場、そしてこれからの未来へ続く地域とのつながり、そんな時間を共に感じてみませんか。

■期 間 令和7年7月25日（金）～9月15日（祝・月）

■会 場 武蔵国分寺跡資料館 講座室

■入 館 料 「おたかの道湧水園」への入園料が必要

■休 館 日 月曜日（祝・振替休日の場合は直後の平日）



第四小学校正門前（昭和35年）

国分寺を訪れた江戸時代中期の文化人「大田 南畝」

江戸時代中期、大都市江戸は経済活動が盛んになり、江戸文化も花開きました。大田南畝（名は覃、字は士稻、通称は直次郎、号は四方山人、蜀山人、四方赤良など）は、寛延2年（1749）3月3日、幕府の御家人の御徒（徳川将軍が江戸城から外出するときに徒歩で警護する役）の子として、江戸牛込仲御徒町で生まれました。幼少から学問を励み、明和4年（1767）19歳で狂詩文集の『覆惣先生文集』を出版し、本草学者、蘭学者で、戯作などの著作がある平賀源内、吉原大門口の五十間道で本屋「耕書堂」を開店した蔦屋重三郎、狂歌師仲間（平秋東作、唐衣橘州・朱楽菅江・宿屋飯盛ら）と交流しました。

寛政6年（1794）46歳の時に、幕臣の学力試験である学問吟味において首席で合格し、2年後には幕府の役所の勘定所の支配勘定に昇進し、大坂銅座、長崎奉行所にも派遣されました。文化5年（1808）12月26日、60歳の時に、大雨による玉川（多摩川）の堤防の状況確認のため江戸を出発し、翌年4月3日まで流域の村々を見回り上流の羽村まで赴いています。南畝は、出張中の出来事を日記（『調布日記』）に書きつづっています。

文化6年（1809）2月24日に、公務の余暇を使って40年振りに国分寺村へ再訪し、恋ヶ窪村まで足を延ばしました。大田家には、先祖の由緒を記した文書の写しが

残されており、それによれば恋ヶ窪村が先祖の出身にあたり、名字の発祥の地であるとあります。村内では、東福寺や一葉松、傾城の松などを見て、村の里正（名主）には大田の名字の所在などをた



『近世名家肖像』大田 直次郎
（東京国立博物館蔵 所蔵）

づねましたが、先祖を確認できる資料がなかったことが記されています。この日は、清明（24節気のひとつ、祖先の墓に参り、墓を清掃する、春を迎えて郊外を散策する日）の翌日で、先祖のことを想い詠んだ狂歌が詩歌文集の『玉川余波』に収められています。

むさしのゝ 末もはるけき 遠つおやの
みかげを恋る 窪にこそいれ

晩年は転倒や病気により不自由な生活を送り、75歳で生涯を閉じました。

（佐々木秀明）

画像出典：国立文化財機構所蔵品統合検索システム

https://colbase.nich.go.jp/collection_items/tnm/A-9153?locale=ja

国分寺市文化財ふれあいカレンダー【令和7年度事業予定】

月	日(曜日)	行 事
4	18日(金)	●端午の節句飾り【旧本多家住宅長屋門】(5月6日まで)
	26日(土)	●「子ども歴史クイズラリー」(5月6日まで)【おたかの道湧水園ほか】
	29日(火)	●「拓本体験」【武蔵国分寺跡資料館】
7	25日(金)	●武蔵国分寺跡資料館 夏季企画展「学校ができたー昭和の記憶と国分寺市ー」(9月15日まで)
	26日(土)	●缶バッジ作成(子ども向け)【武蔵国分寺跡資料館】 ●明日華姫ちゃん・国分寺の文化財めぐりえ(子ども向け)(8月31日まで)【武蔵国分寺跡資料館】
8	2日(土)	●「拓本うちわを作ろう」(子ども向け)【武蔵国分寺跡資料館】※
	9日(土)	●缶バッジ作成(子ども向け)【武蔵国分寺跡資料館】
	23日(土)	●「レプリカをつくろう」(子ども向け)【おたかの道湧水園】※
9	1日(月)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座【国分寺市役所】※
	25日(木)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座【国分寺市役所】※
10	上旬	●十五夜飾り【旧本多家住宅長屋門】
	7日(火)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座【国分寺市役所】※
	9日(木)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座【国分寺市役所】※
	10日(金)	●市内文化財めぐり ※
	18日(土)	●おたかの道湧水園・開園記念日 おたかの道湧水園無料公開 ●武蔵国分寺跡資料館 秋季企画展「発掘された国分寺市 2025」(12月7日まで)
	22日(水)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座【武蔵国分寺跡資料館】※
	25日(土)	●子ども向けクイズ(～11月3日まで)【武蔵国分寺跡資料館】
	30日(木)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座【武蔵国分寺跡資料館】※
	下旬	●十三夜飾り【旧本多家住宅長屋門】
11	2日(日)	国分寺まつり ●おたかの道湧水園無料公開 ●史跡ガイドボランティア現地説明(僧寺金堂跡・真姿の池湧水群ほか) 定点ガイド ●「レプリカをつくろう」(子ども向け)【おたかの道湧水園】※
	7日(金)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座【武蔵国分寺跡資料館】※
	13日(木)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座【武蔵国分寺跡資料館】※
	30日(日)	●歴史講演会【本多公民館】※ ○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座【本多公民館】※
12	上旬	●ヨウカソウ展示【旧本多家住宅長屋門】
	23日(火)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座【国分寺市役所】※
	下旬	●正月飾り【旧本多家住宅長屋門】
1	上旬	●龍玉飾り【旧本多家住宅長屋門】
	17日(土) 18日(日)	多摩郷土誌フェア【立川市柴崎学習館】
	24(土)	★市史編さん歴史講演会【東京経済大学 大倉喜八郎 進一層館 Forward Hall】
	26日(月)	文化財防火デー
2	上旬	●ヨウカソウ展示【旧本多家住宅長屋門】
	7日(土)	●市外文化財めぐり「上総国分寺跡ほか」(千葉県市原市ほか)※
	中旬	●ひな人形展示(～3月上旬まで)【旧本多家住宅長屋門】
3	1(日)	★市史編さん歴史講演会【cocobunjiプラザ(リオンホール)】

・記号説明：●→ふるさと文化財課主催・共催事業 ○→ふるさと文化財課愛護ボランティア養成講座

無印→ふるさと文化財課関連行事 ★→市史編さん室主催事業

【 】→会場 ※→事前申込制

・内容、日程は変更することがあります。

・事業の詳細は市報、または市のHPをご参照ください。

お問い合わせ先 国分寺市教育委員会 ふるさと文化財課

185-8501 東京都国分寺市泉町2-2-18〈電話〉042-312-8682〈FAX〉042-325-1380

ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座のご案内

史跡武蔵国分寺跡のガイドや文化財普及活動に携わる「文化財愛護ボランティア」を養成する講座を開催します。

ボランティアには2つの区分があります。

【史跡ガイドボランティア】
史跡武蔵国分寺跡周辺で文化財を案内解説など

【文化財普及ボランティア】
文化財関連の講演会やイベント等の運営補助作業など

【日 程】ふれあいカレンダー参照 (P.3)

【募集人数】15名

【申込期間】7月16日まで

申込み多数の場合は抽選、定員に満たない場合は翌日以降先着順で受付

【費 用】無料

【申込方法】申込書を下記の方法で提出

〈Email〉bunkazai@city.kokubunji.tokyo.jp

〈直接〉ふるさと文化財課 (国分寺市役所3階)

〈郵送〉185-8501 国分寺市泉町2-2-18 ふるさと文化財課

【講座会場】国分寺市役所、武蔵国分寺跡資料館ほか

【問合せ先】ふるさと文化財課 (042-312-8683)

※「申込書」は、ふるさと文化財課、史跡の駅 (おたかフェ)、文化財資料展示室 (四中)、ひかりプラザ、市立公民館、地域センターで配布
市 HP からダウンロードができます。

※詳細は、国分寺市報 (7/1)・市 HP (6/25 以降) をご覧ください。



北多摩縄文スタンプラリー開催

5つのまちをまわって縄文を探検しよう!

調布市・東村山市・国分寺市・国立市・西東京市のポイントをめぐり、スタンプを集めて景品をもらおう。

【期 間】令和7年7月19日 (土)～令和8年1月25日 (日) ※景品の交換は2月8日 (日) まで

【場 所】市内の縄文ノート配布・スタンプ設置ポイントは、武蔵国分寺跡資料館と文化財資料展示室の2か所

【景 品】3ポイント：オリジナル野帳
10ポイント：ロゴ入り真空タンブラー
景品はなくなり次第交換終了

【費 用】参加費無料

【問 合 せ】東村山ふるさと歴史館 042-396-3800

※詳細は国分寺市報 (7/15)・市 HP (7/11 以降) をご覧ください。



来館者数

多くのご来館ありがとうございました

2009年10月18日～2025年3月末日

来館者数累計 202,612名

【1月～3月の学校見学】

	学校	人数
小学生	3	183
中学生	2	62
高校生	1	16

【来館校】市立西小、五小 (6年生)、早稲田商業
初等科 (3年生)、府中一中、明星中学校 (1年生)、
和光高等学校 (3年生)

月	来館者数	開館日数
1	577	24
2	727	24
3	970	26
計	2,274	74

○来館者数は、おたかの道湧水園の入園者数

武蔵国分寺跡資料館ご利用案内



■交通のご案内

【電車】JR国分寺駅下車／徒歩約20分 JR西国分寺駅下車／徒歩約15分

【バス】国分寺駅下車

- 「国分寺駅西」より国分寺市地域バス「ぶんバス」
万葉・けやきルート「史跡武蔵国分寺跡」下車／徒歩約8分
- 「国分寺駅南口」より「京王バス」
系統番号「寺83」・「寺85」乗車「泉町一丁目」下車／徒歩約8分
- 西国分寺駅下車
○「西国分寺駅東」より国分寺市地域バス「ぶんバス」
万葉・けやきルート「史跡武蔵国分寺跡」下車／徒歩約8分

※駐車場はありません

■開館時間

午前9時～午後5時 (入園は午後4時45分まで)

■休館日

毎週月曜日 (祝日・振替休日の場合はその翌日)
年末年始 (12月29日から1月3日まで)

※展示替えなどで臨時休館することがあります。

■入園料

資料館に入館するには「おたかの道湧水園」への入園料が必要になります。(入園券は史跡の駅で販売)

一般……………100円 (年間パスポート1,000円)

中学生以下……………無料

【入園料の減免規則があります】

- (1) 学校の教育活動で生徒 (中学生を除く)、学生及び引率の教職員が入園するとき (事前 (5日前まで) に減免申請書の提出が必要です。)
- (2) 身体障害者等及びその介護者が入園するとき
〔発券窓口の史跡の駅で身体障害者手帳等の提示が必要です。〕
- (3) その他教育長が特別の理由があると認めるとき
〔事前 (5日前まで) に減免申請書の提出が必要です。〕

※減免申請書は、国分寺市のホームページからダウンロードできます。



見る 学ぶ 訪ねる
武蔵国分寺跡
資料館

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum



ホームページ
二次元バーコード

武蔵国分寺跡資料館

令和7年度夏季企画展

学校 ができた

—昭和の記憶と国分寺市—

四小正門前(昭和35年)

会期

7月25日(金)～9月15日(祝)月

会場

武蔵国分寺跡資料館 講座室

午前9時～午後5時
(入園は午後4時45分まで)

武蔵国分寺跡資料館
Musashi Kokubunji Temple Remains Museum

[住所] 〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10

[電話] 042-323-4103 [FAX] 042-300-0091

<http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/shisetsu/kouen/1005196/1004239.html>

学校

—昭和の記憶と国分寺市—

学校の姿が木造からコンクリートに大きく変わった昭和の時代。皆さんのご家族や地域の人々にとって、学校の誕生はどのような意味を持っていたのでしょうか。今回の展示では、昭和30～40年代の貴重な記録写真や当時の資料を通して、学校と地域がいかに共に歩んできたか、その温かい記憶を皆さんにお届けします。かつての子どもたちが通った懐かしさも活気あふれるあの日々、そしてこれからの未来へ続く地域とのつながり、そんな時間を共に感じてみませんか。皆様のご来場を心よりお待ちしております。



四小給食指導（昭和42年）



昭和の
教室の風景を
再現！

五小入学式（昭和40年）

◇ 懐かしい昭和の風景を
ご体験ください…

足踏み式オルガン（イメージ）



撮影
コーナー
あり☑。

八小運動会（昭和48年）

■開館時間

午前9時～午後5時（入園は午後4時45分まで）

■休館日

毎週月曜日（祝日・振替休日の場合はその翌日）

■入園料

資料館に入館するには「おたかの道湧水園」への入園料が必要になります。（入園券は史跡の駅で販売）

一般……………100円（年間パスポート1,000円）

中学生以下……………無料

〔以下の場合に入園料の減免ができます〕

- 学校の教育活動で生徒（中学生を除く）、学生及び引率の教職員が入園するとき〔事前（5日前まで）に減免申請書の提出が必要です。〕
- 身体障害者及びその介護者が入園するとき〔発券窓口の史跡の駅で身体障害者手帳等の提示が必要です。〕
- その他教育長が特別の理由があると認めるとき〔事前（5日前まで）に減免申請書の提出が必要です。〕

※減免申請書は、国分寺市のホームページからダウンロードできます。

■交通のご案内

〔電車〕◎JR・西武「国分寺駅」下車／徒歩約20分 ◎JR「西国分寺駅」下車／徒歩約15分

〔バス〕◎国分寺市地域バス『ぶんバス』万葉・けやきルート「史跡武蔵国分寺跡」下車／徒歩約8分

◎国分寺駅南口「京王バス」系統番号<寺83>・<寺85>乗車「泉町一丁目」下車／徒歩約8分

企画展の会期や時間等については、今後の諸事情により変更する場合があります。お手数ですが、ご来園の際は市HP等で最新情報をお確かめください。



武蔵国分寺跡資料館
Musashi Kokubunji Temple Remains Museum

〔住所〕〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10
〔電話〕042-323-4103 〔FAX〕042-300-0091
<http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/shisetsu/kouen/1005196/1004239.html>



ホームページはこちらから

史跡地の維持管理について

史跡地の公有化・整備が進むにつれ、管理面積が広がり、維持管理にかかる負担も増大しています。

令和7年度予定

1. 除草等

- ①シルバー人材センターによる除草、柵修繕、植木刈込等(予算 16,684,776 円)
- ②障害者施設による除草(予算 247,500 円)
- ③民間事業者による尼寺の除草 14,385 m²×2回 ⇒令和7年度追加
(契約金額 4,895,000 円)



R6.6 南門地区



R6.6 尼寺

2. 枯損木・倒木処理

民間事業者(予算 8,017,020 円)

3. 看板修繕 東山道武蔵路(西元町地区)

平成 23 年度に整備した看板4枚が劣化しているため、令和7年度中に修繕を行います。(見積もり金額 167,200 円)



今後修繕が必要な箇所

		
①尼寺幢竿支柱	②尼寺ベンチ	③尼寺 掘立柱塀
		
④伝鎌倉街道看板	⑤北東地区 植物解説板	⑥湧水園内 七重塔模型

その他、車止めのポール、湧水園内のベンチ等も修繕が必要です。

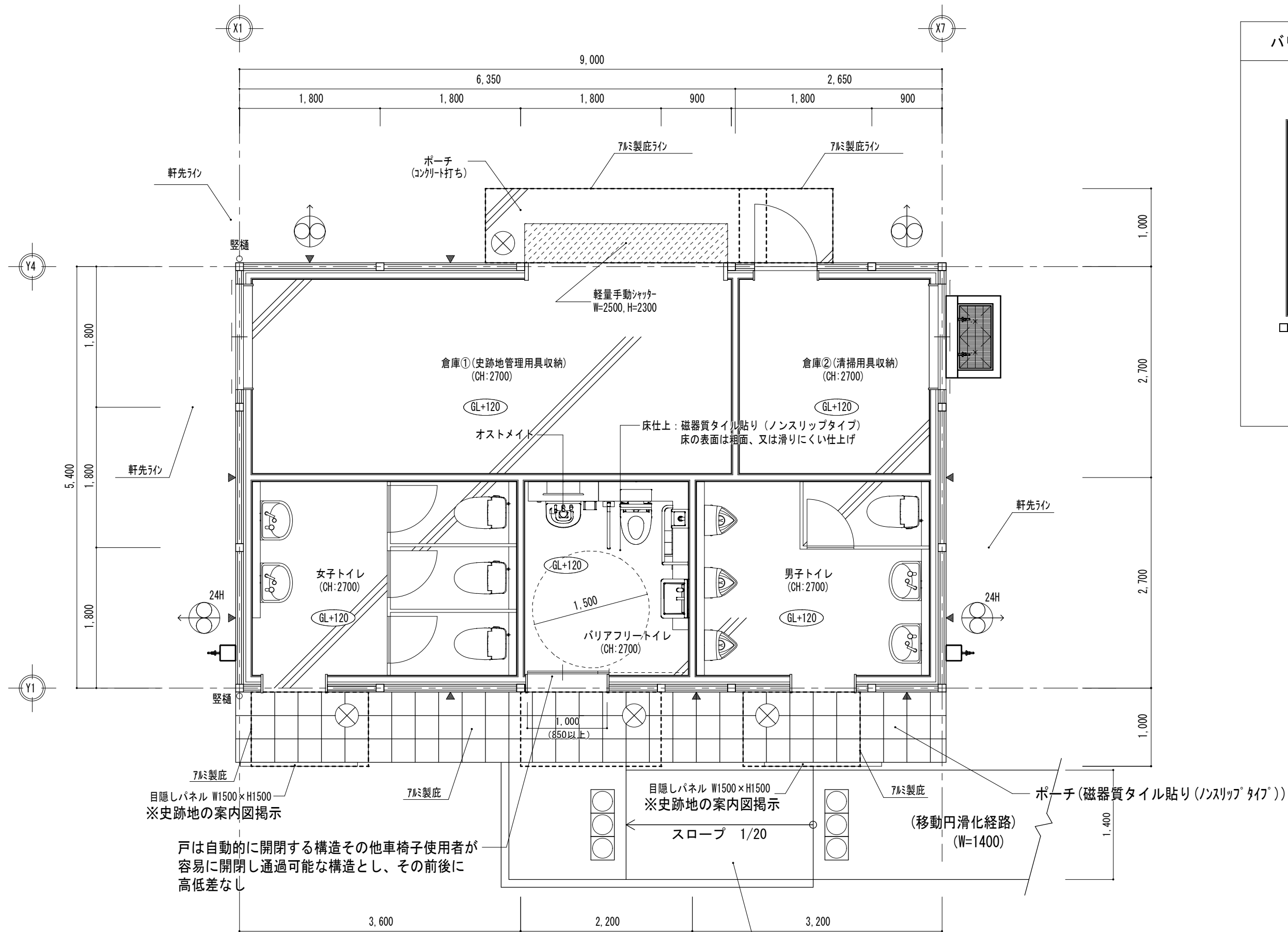
史跡地内トイレの改修について

伽藍中枢部の北（西元町一丁目 15-15）に設置されているトイレの改修工事の進捗状況についてご報告いたします。当該トイレは史跡地内にあることから、文化財保護法第 125 条第 1 項の規定により文化庁へ現状変更許可申請を行い、令和 6 年 6 月 20 日付で許可を得た上で、掘削を伴う工事を行っています。

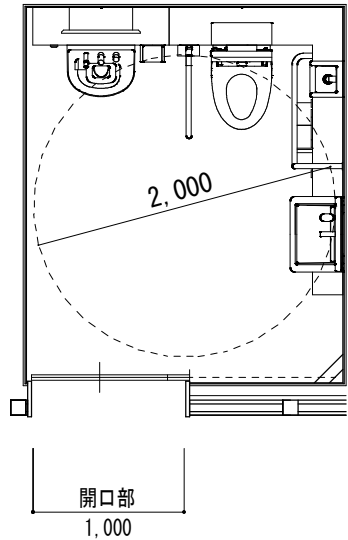
- 1 所在地 西元町一丁目 15-15
- 2 改修後の便槽数 男子小便器×3、男子個室×1、女子個室×3、
バリアフリースイートイレ×1（※個室は全て洋式）
- 3 工事期間 令和 7 年 6 月 1 日（日）～8 月 31 日（日）
- 4 工事の進捗 解体、基礎、鉄骨工事が終了し、外壁工事中
- 5 図面 別紙のとおり
- 6 その他

男子トイレ及び女子トイレの入り口前に目隠しパネルを設置し、史跡地のマップ等を掲示することで、訪問者の利便性の向上を図ります。また、個室トイレの扉の内側に、古代のトイレについての豆知識を掲示し、武蔵国分寺が建てられた時代へ思いをはせるきっかけを作ります。色合いについては、史跡地と崖線の緑になじむよう、茶色系統とします。





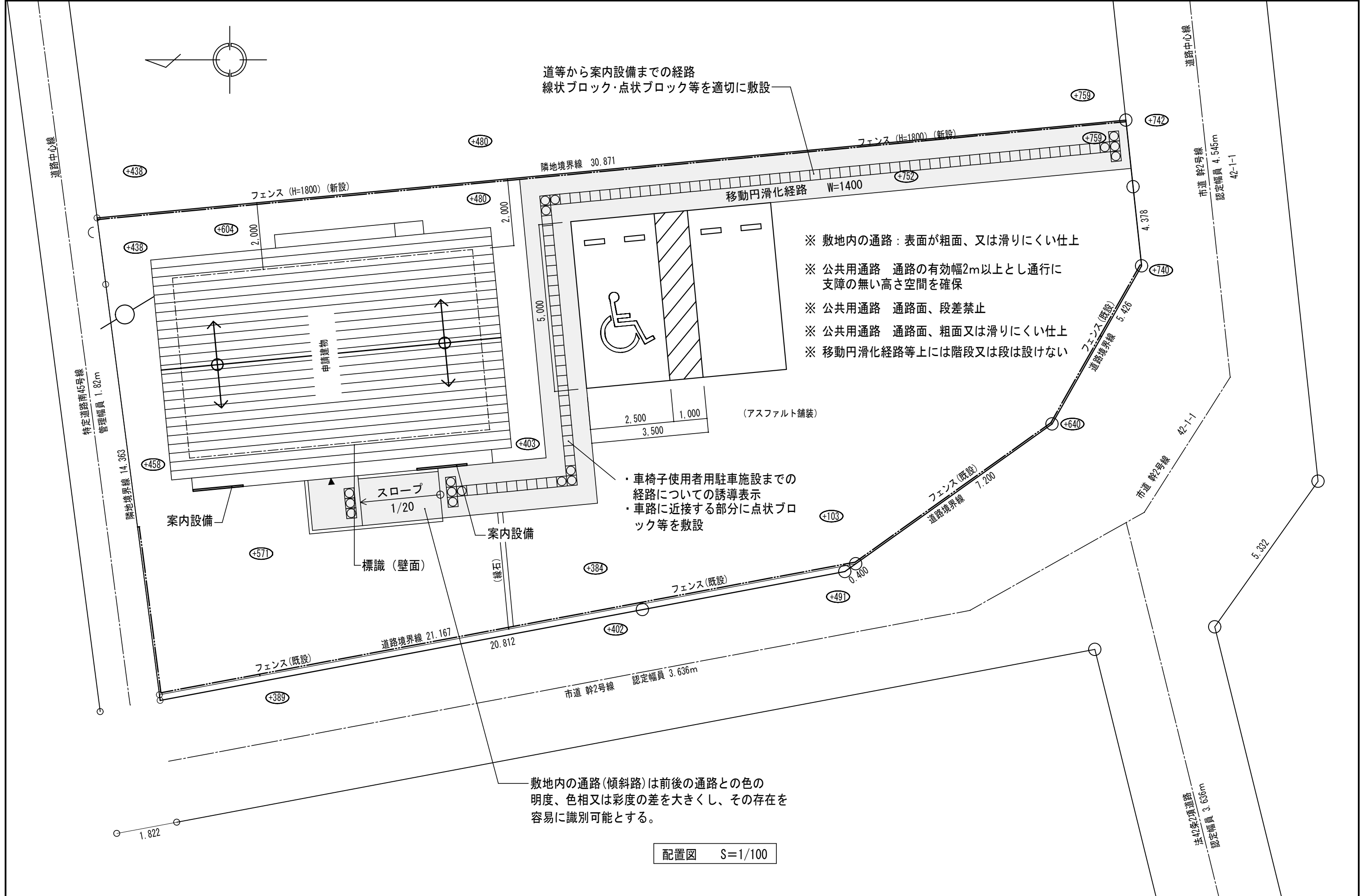
バリアフリースイレ 内法寸法



平面図 S=1/50

スロープ：コンクリート刷毛引き仕上
上端及び下段に注意喚起ブロックを配置し、傾斜路全体を
明度、色相又は彩度の差を大きくし、平坦部との仕上等の
差を大きくする。

附記事項		建上場所：東京都国分寺市西元町1-1604-1			富士産業株式会社 一級建築士事務所	一級建築士 第192962号 茅野 哲朗	日付	25.6.11	工事名	武蔵国分寺跡史跡地内公衆用トイレ借上工事		NO. A-04バ
スパン：1F 3.5P 3K×5K		作成者	伊藤				図名	平面図（バリアフリー）		A3 S=1:50		
管理No. 東-45-37 施主名：国分寺市役所		チェック者	伊藤									



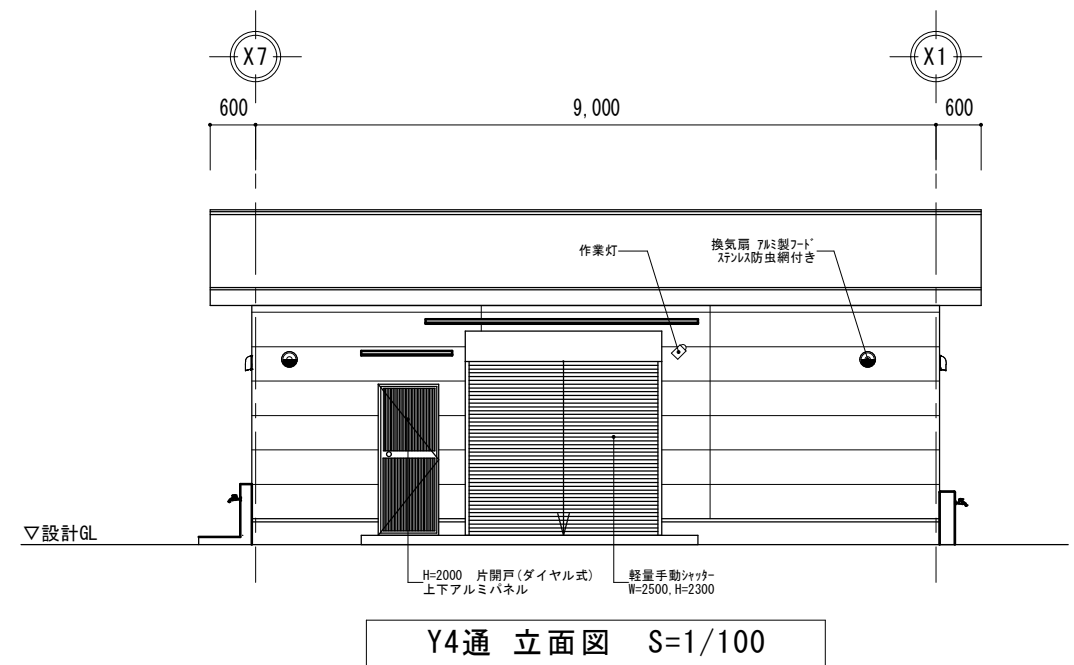
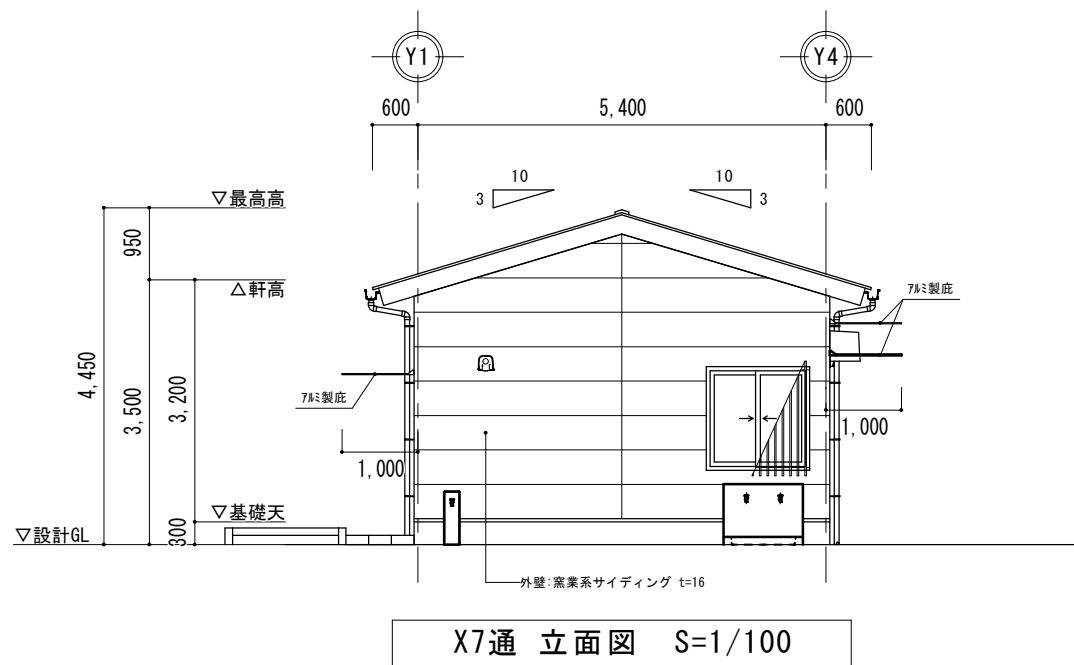
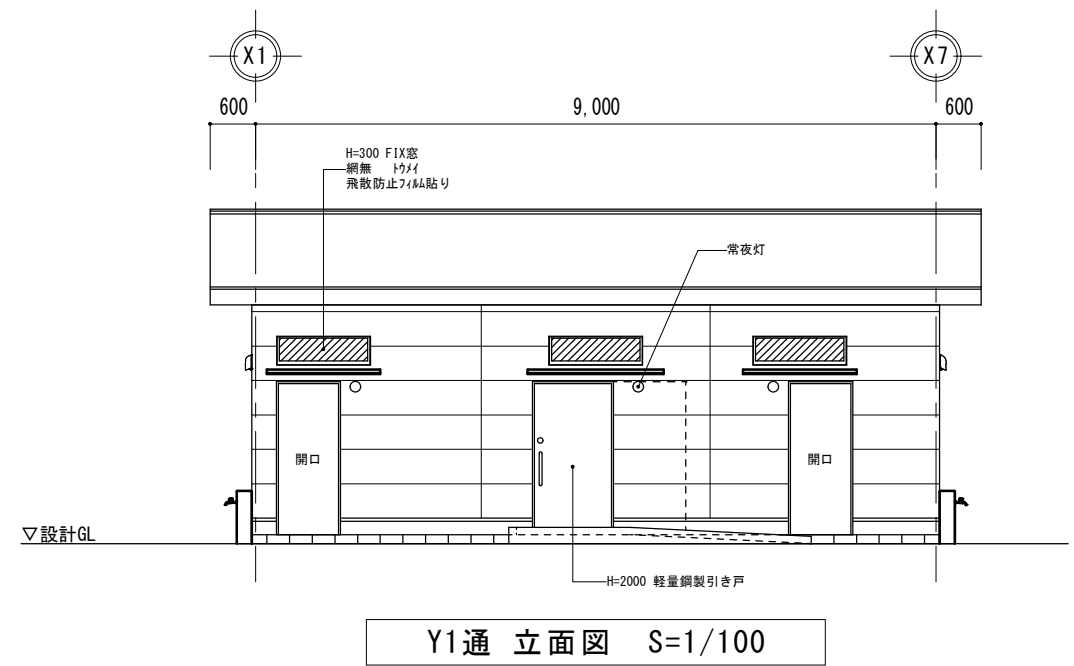
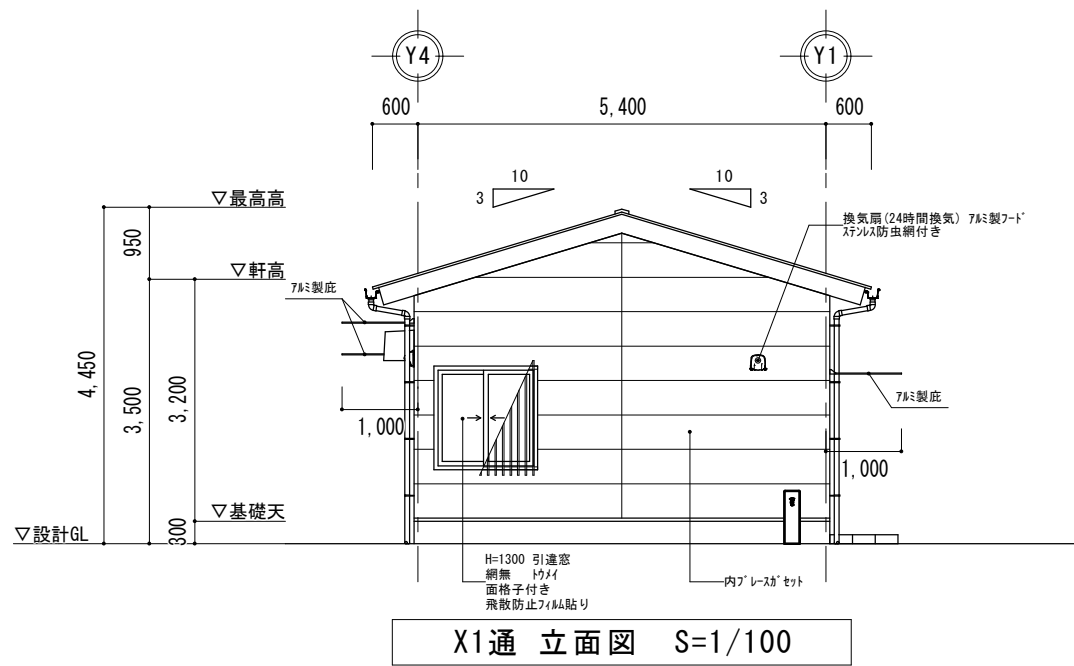
道等から案内設備までの経路
線状ブロック・点状ブロック等を適切に敷設

- ※ 敷地内の通路：表面が粗面、又は滑りにくい仕上
- ※ 公共用通路 通路の有効幅2m以上とし通行に支障の無い高さ空間を確保
- ※ 公共用通路 通路面、段差禁止
- ※ 公共用通路 通路面、粗面又は滑りにくい仕上
- ※ 移動円滑化経路等上には階段又は段は設けない

- ・車椅子使用者用駐車施設までの経路についての誘導表示
- ・車路に近接する部分に点状ブロック等を敷設

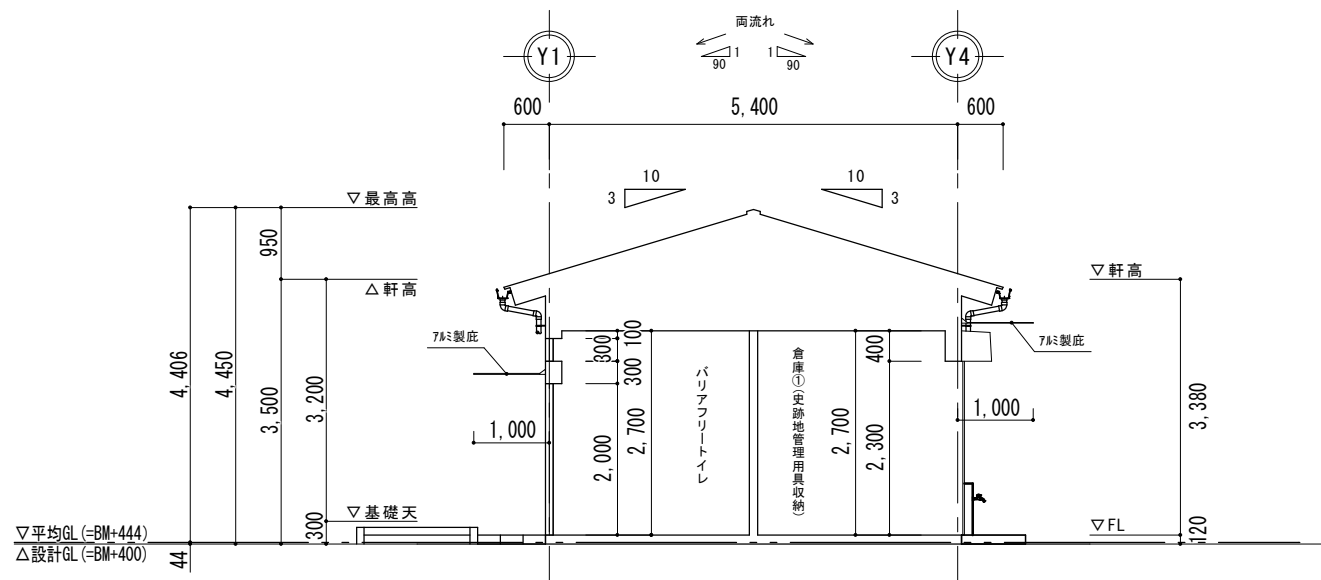
敷地内の通路(傾斜路)は前後の通路との色の明度、色相又は彩度の差を大きくし、その存在を容易に識別可能とする。

配置図 S=1/100

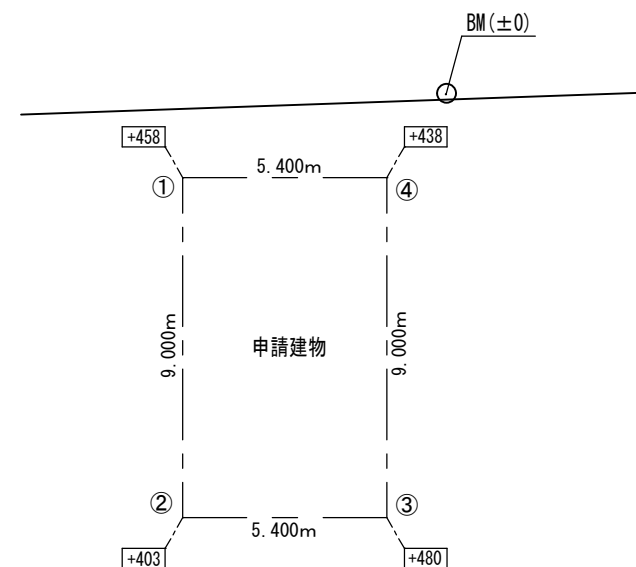


※ 道路斜線、高度斜線とも明らかに支障なし。

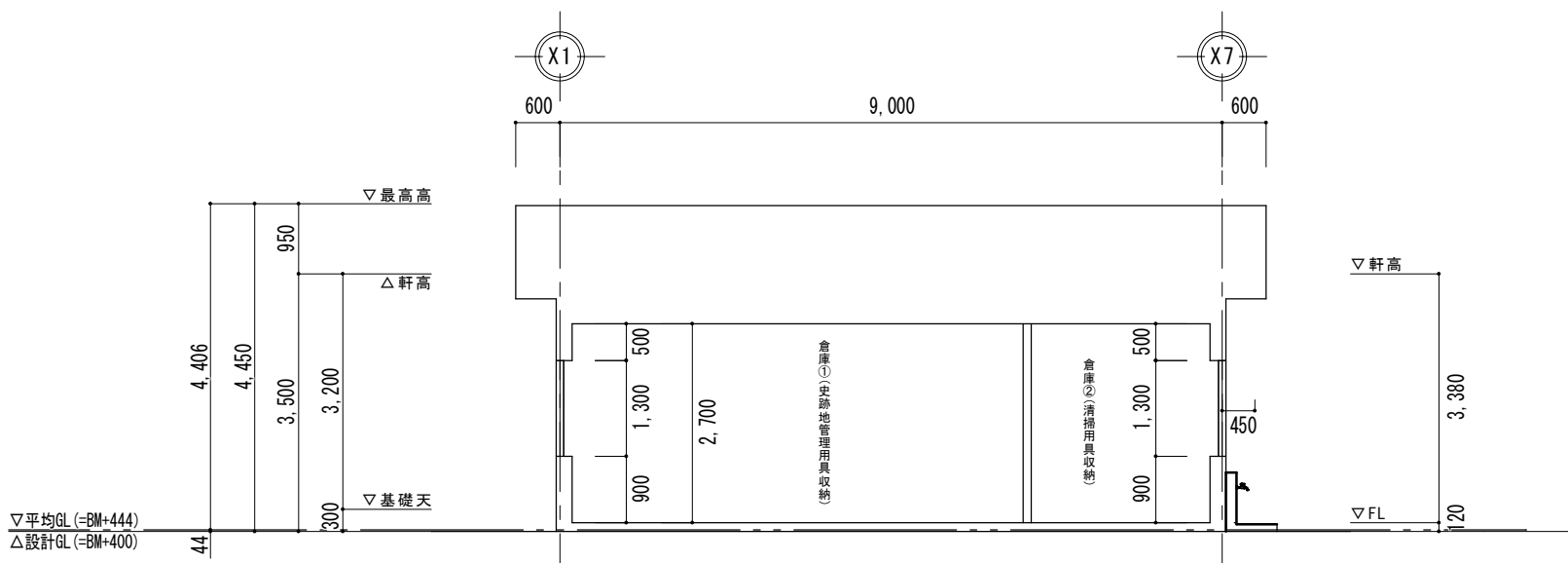
附記事項		建上場所：東京都国分寺市西元町1-1604-1			富士産業株式会社	一級建築士 第192962号	茅野 哲朗	日付	25.6.11	工事名	武蔵国分寺跡史跡地内公衆用トイレ借上工事		NO. A-05
		スパン：1F 3.5P 3K×5K						作成者	伊藤	図名	立面図	A3 S=1:100	
管理No.	東-45-37	施主名：国分寺市役所						チェック者	伊藤				



A-A通 断面図 S=1/100



平均地盤算定						
ポイント	二点間水平距離	*	(地盤面 1) + (地盤面 2)	/	2	= 面積 (S)
① - ②	9.00	*	(+0.458) + (+0.403)	/	2	= +3.8745
② - ③	5.40	*	(+0.403) + (+0.480)	/	2	= +2.3841
③ - ④	9.00	*	(+0.480) + (+0.438)	/	2	= +4.1310
④ - ①	5.40	*	(+0.438) + (+0.458)	/	2	= +2.4192
					合計	+12.8088
					Σ S / Σ L =	+0.44475
12.8088 / 28.80 = +0.44475 → +0.444						
平均GL = +444 = 設計GL + 44 (設計GL = BM + 400)						



B-B通 断面図 S=1/100



令和7年度ゴールデンウィーク 「子ども歴史クイズラリー」実施報告

◆日 時：令和7年4月26日（土）～5月6日（火・振休）

※4月28日（月）の休園日を除く 10日間

◆会 場：おたかの道湧水園（長屋門・武蔵国分寺跡資料館）・史跡武蔵国分寺跡

◆対 象：中学生以下（※誰でも参加可とした）

◆景 品：シール（子ども）・しおり（大人）

◆人 数：85名（子ども43名・大人42名）

※シール・しおり配布個数。内訳は下記参照

日にち	4/26 (土)	4/27 (日)	4/28 休館日	4/29 (火/祝)	4/30～5/2 (水・木・金)	5/3 (土/祝)	5/4 (日/祝)	5/5 (月/祝)	5/6 (火/振)	計
子ども	7	5		13	0	2	13	3	0	43
大人	4	4		12	0	4	8	10	0	42
計	11	9		25	0	6	21	13	0	85

◆概 要

ゴールデンウィーク中に、子どもを中心とした来園者が園内施設と周辺文化財を散策しながらクイズを楽しんでもらうことを目的として実施した。クイズ用紙（ワークシート）には全10問のクイズ（3択）と地図を添付し、クイズに関連する場所をおたかの道湧水園（長屋門・園庭・資料館）、史跡武蔵国分寺跡（僧寺中枢部・七重塔跡・参道）、楼門にちりばめ、各地点を見学できるようにした。また、史跡地等を初めて訪れる、市外からの来園者や未就学児の参加も多いため、設問該当地点・付近にヒントマークを付けて、答えを見つけやすいようにした。

天候が悪い最終日と平日は除き、休日には子どもだけでなく大人も多く参加し、クイズを楽しんだようだ。職員とクイズの答え合わせの後には、スタンプを押したりと一連の流れを楽しんでいる姿が伺えた。

記録写真



令和7年度 ゴールデンウィーク・「拓本体験」実施報告

◆日 時：令和7年4月29日（火・祝）

午前 10：00～11：30 午後 13：30～15：00

◆会 場：武蔵国分寺跡資料館・講座室

◆対 象：誰でも

◆人 数：午前：32名（子ども：14名・大人18名）

午後：27名（子ども：6名・大人21名）

合計：59名（子ども：20名・大人39名）

◆職員2名 普及ボランティア10名（午前5名・午後5名）

◆概 要

和紙を瓦の上に置き、クーピーペンシルで文字を浮き上がらせる方法を用いた拓本（乾拓）体験である。参加者は好きな瓦を選んでボランティアの補助を受けながら乾拓体験をした。完成した拓本は台紙となる画用紙に貼り付け、作品として持ち帰ることができるようにした。事前周知により拓本体験を目的に資料館に訪れた参加者とともに、ゴールデンウィーク前半の連休とならない祝日にイベントを設定したこと、天候に恵まれたことが功を奏したのか、周辺散策者も普段より多く、市民だけでなく近隣市から偶然立ち寄り参加する親子連れや大人のグループが多く見られた。

多くのボランティアが運営補助に携わり、拓本の仕方だけでなく、使用する瓦、配布資料の補足説明など適宜行い、参加者は拓本という行為だけでなく、実際に本物の瓦に触れること、瓦に刻まれた文字や模様にも興味を示す姿が伺えた。

記録写真



拓本体験会場（設営）



拓本体験・作業風景



夏休みイベント情報

武蔵国分寺跡資料館では夏休みの間に皆さんが楽しめるプログラムをそろえてお待ちしております。
うちわとレプリカは予約が必要です。お申し込みは下の専用フォームからお願いします。



武蔵国分寺跡資料館
イメージキャラクター
明日華姫ちゃん

ワークショップは参加費無料
小学3年生以下は、保護者と
一緒に参加してね

拓本うちわ・レプリカ申込み

7/23 (火) 17:00 までに二次元コードから
お申し込みください。多数の場合は抽選、定員
に満たない場合は翌日以降先着で受け付けます。

オリジナル缶バッジ作成

① 生き物モチーフのバッジをつくらう

開催日 7/26 (土)

② 資料館の展示品をモチーフにバッジをつくらう

開催日 8/9 (土)

【①・② 共通】

時間 午前の部：10:00～11:30

午後の部：14:00～16:00

対象 子ども優先

※作成は1人ひとつ。

※各日先着 50 名



拓本は
昔のコピー技術
です！

拓本うちわを作ろう

瓦に刻まれた文字や模様を写し取って「うちわ」にしよう

開催日 8/2 (土)

時間 ① 9:30 ② 10:30 ③ 11:30

定員 ①～③ 各 6 名程度

対象 中学生以下

申込み



← 二次元コード
からメールで



要予約

レプリカをつくらう

瓦・土偶・尖頭器のレプリカをつくってみよう

開催日 8/23 (土)

時間 ① 10:00 ② 11:00 ③ 14:30

定員 ①～③ 各 6 名程度

対象 中学生以下



申込み

二次元コード
からメールで



令和7年度夏季企画展

学校ができたー昭和の記憶と国分寺市ー



開催日 7/25 (金) ～9/15 (月・祝)

場所 武蔵国分寺跡資料館 講座室

文化財めぐりえ

資料館に展示しているモノや、明日華姫ちゃんなど
のめぐりえを配布。図柄は隔週でかわるよ

開催日 7/26 (土) ～8/31 (日)

時間 武蔵国分寺跡資料館の開館日・時間

場所 2階多目的スペース

※多目的スペースは「めぐりえ」の配布のほか、色えんぴつ
を用意し、めぐりえができる場所として開放します。

HPはこちらから



【問い合わせ】

国分寺市教育委員会 ふるさと文化財課

TEL : 042-312-8683 ※ (月～金の 8:30 から 17:00 の間)

mail : bunkazai@city.kokubunji.tokyo.jp

資料 3-3

史跡武蔵国分寺跡周辺 校外学習事業について

史跡武蔵国分寺跡周辺校外学習事業開催日程(小学六年生)

	開催日	備考
第四小学校	4月 24 日(木)	実施済み
第六小学校	6月 24 日(火)	実施済み
第十小学校	6月 27 日(金)	実施済み
第七小学校	9月 26 日(金)	二学期開催
第一小学校	9月 30 日(火)	二学期開催
第三小学校	10 月3日(金)	二学期開催
第八小学校	10 月23 日(木)	二学期開催
第九小学校	11 月12 日(水)	二学期開催
第二小学校	11 月18 日(火)	二学期開催
第五小学校	2月 20 日(金)	二学期開催



主な見学場所

北東地域・国分僧寺・七重塔跡・武蔵国分寺跡資料館

新庁舎社会科見学事業日程(小学三年生)

学校名	開催日	備考
第九小学校	6月2日(月)	実施済み
第四小学校	6月3日(火)	実施済み
第十小学校	6月4日(水)	実施済み
第三小学校	6月 6 日(金)	実施済み
第六小学校	6月9日(月)	実施済み
第一小学校	6月 13 日(金)	実施済み
第二小学校	6月 17 日(火)	実施済み
第七小学校	10 月 2 日(木)	二学期開催
第五小学校	10 月 7 日(火)	二学期開催
第八小学校	11 月 7 日(金)	二学期開催



解説内容

七重塔模型の話・武蔵国分寺跡の話・展示している瓦の話

令和 7 年度史跡保存整備工事について

工事件名：史跡武蔵国分寺跡（僧寺地区）第一期整備工事
（中枢部周辺地区〔南門地区〕）第二工区その 4

工事主管課：ふるさと文化財課

工事担当課：緑と公園課

施工会社：西武造園株式会社 東日本支店

工 期：令和 7 年 6 月 6 日から令和 8 年 2 月 27 日

整備内容：※令和 6 年度実施設計に基づく

（1）中門東範囲

- ・ 中枢部区画施設（築地塀・溝）の平面表示
- ・ ソーラー照明灯の設置

（2）南東範囲

- ・ 伽藍地区画溝の半立体表示
- ・ 遺構解説板（伽藍地区画溝）の設置
- ・ 四阿 2 基の設置
- ・ 照明灯 4 基の設置
- ・ エントランス広場東側としての石敷

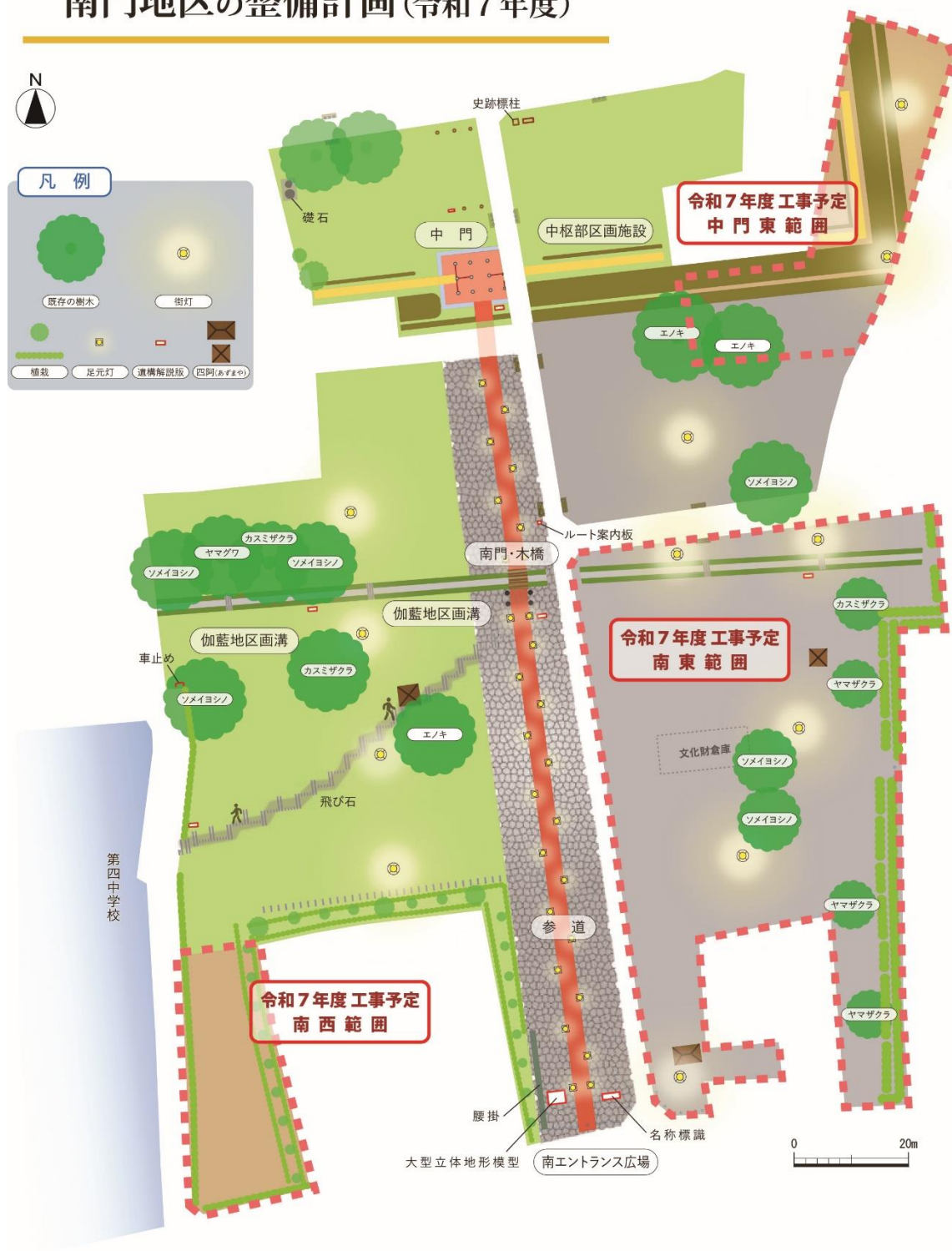
（3）南西範囲

- ・ 北側の既整備範囲に合わせた造成（盛土）

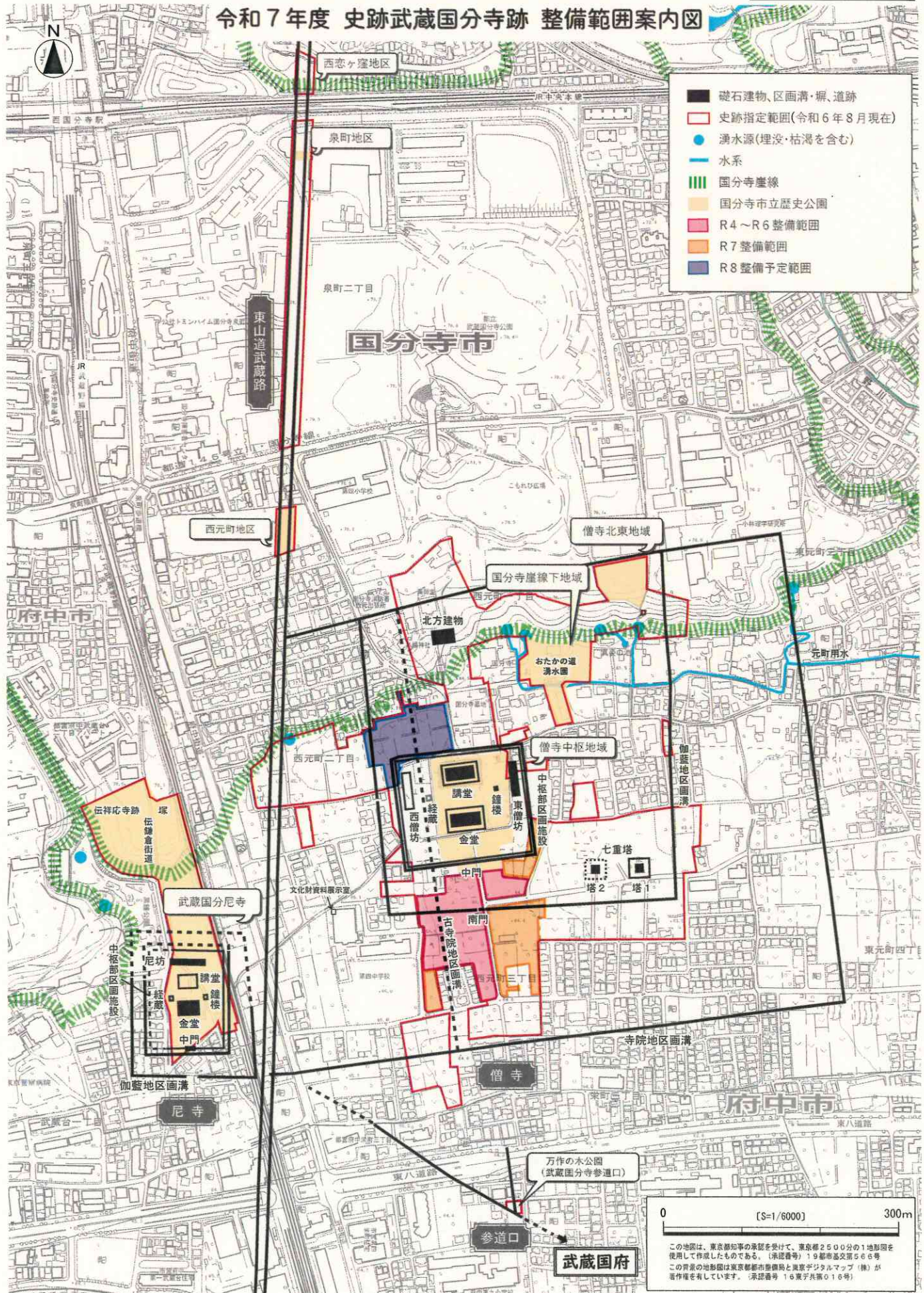
※全範囲共通

- ・ 遺構表示に重なる枯損木の伐採、雨水排水設備（浸透トレンチ）の設置
- ・ フェンス、柵の設置
- ・ 主に民家との間のバッファゾーンへの植栽

南門地区の整備計画(令和7年度)



令和 7 年度 史跡武蔵国分寺跡 整備範囲案内図



中枢部周辺地区（北方・推定中院地区）整備工事の調整設計について

背 景

令和8年度・令和9年度の2カ年で整備工事を実施予定である中枢部周辺地区（北方・推定中院地区）については、令和元年度の基本設計、令和2年度の事前遺構確認調査を踏まえ、令和2年度末に実施設計を完了している。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大時期だったことにより委員会は書面開催となり、実施設計における遺構表示の詳細等について、議論がつくされたとは言い難く、課題を残すものであった。

そこで、来年度以降に整備工事を実施するにあたり、改めて詳細部分について解決を図るべく検討・調整を行うこととした。

<課題1> 築地塀の素材について 資料 5-2

R2 実施設計：「粘性土＋消石灰＋にがり」により1.4mの高さまで版築



立体復元を行う築地塀に屋根がなく、上記材料による施工では耐久性に問題がある。

<課題2> SB39 掘立柱建物跡の表示について 資料 5-3

R2 実施設計：瓦積側壁遺構検出部分はレプリカ展示、掘立柱跡は立体表示



- ① 遺構レプリカ展示と模式的な表示が混在するため見学者に誤解を与える。
- ② 遺構を貫く下水管について、そのまま復元するのか、瓦積みで補うのかが不確定。

<課題3> 敷地北側の植栽について 資料 5-4

R2 実施設計：北側隣地との境に近いバッファゾーンについて、オカメザサを植栽。

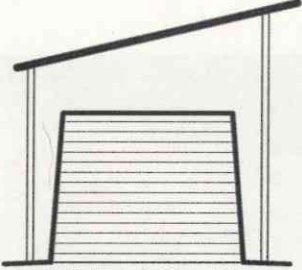
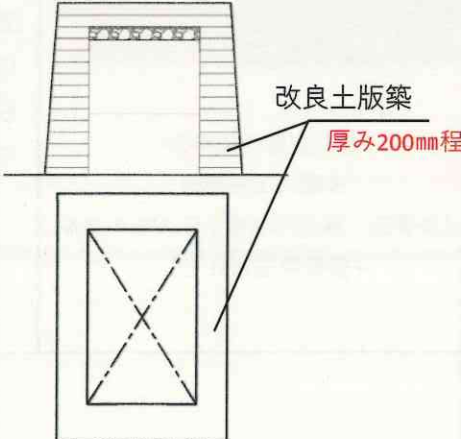


オカメザサは1～2mに成長し、年2回程度の定期的な刈込が必要となる。史跡地内の植栽の維持管理の負担が年々大きくなっているため、より維持管理の容易な植栽としたい。

築地塀復元の素材について

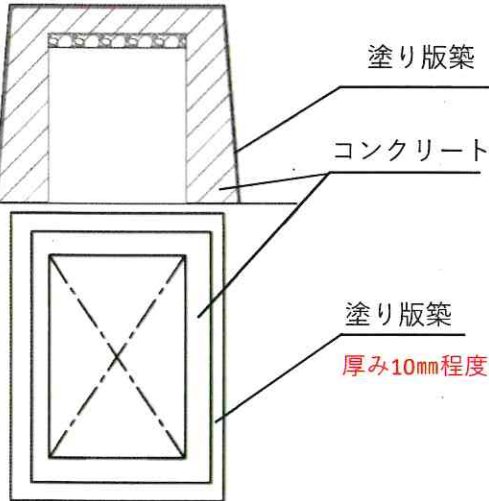
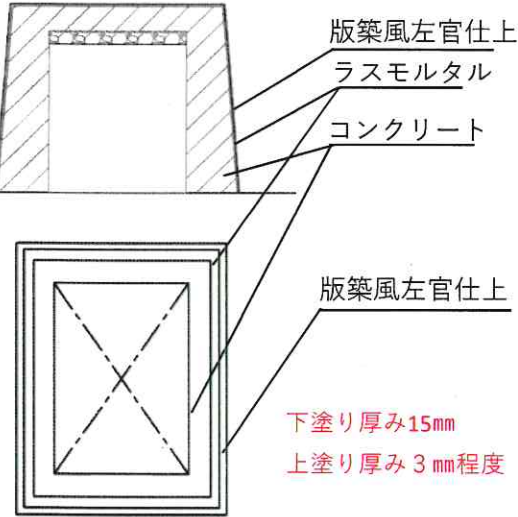
資料5-2

課題：伝統工法の風雨に対する耐久性

案	工 法・材 料	イメージ写真	評価
A	伝統工法＋覆屋 覆屋  伝統的な版築工法 (土+石灰+苦汁等)	 北白川廃寺瓦積基壇 (京都大学文学部陳列館前)	△ 覆屋により劣化の 進行を緩和できる が、築地塀の視認 性を阻害
B	伝統工法＋防水・撥水处理 天端・壁面の防水・撥水处理  伝統的な版築工法 (土+石灰+苦汁等) 突き固め仕上げ	 特別史跡百済寺跡（大阪府枚方市） ※伝統工法部分（保存処理なし） （版築土65mm/層、コンクリート基礎） （復元屋根あり、雨落ちあり）	× 数年ごとの定期的 な保存処理が必須
C	改良土による版築 改良土（土、セメント、固化剤）  改良土版築 厚み200mm程	 近畿壁材 ショールームカウンター (土、セメント、固化剤による版築工法) (固化剤：無機系水溶液)	◎ 伝統的な版築より も強度が出るため 覆屋や保存処理が 不要。

築地塀復元の素材について

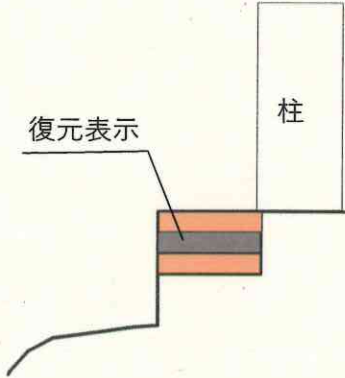
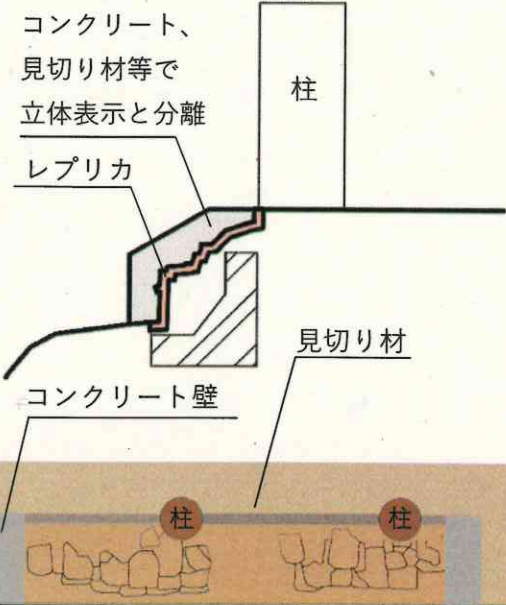
課題：伝統工法の風雨に対する耐久性

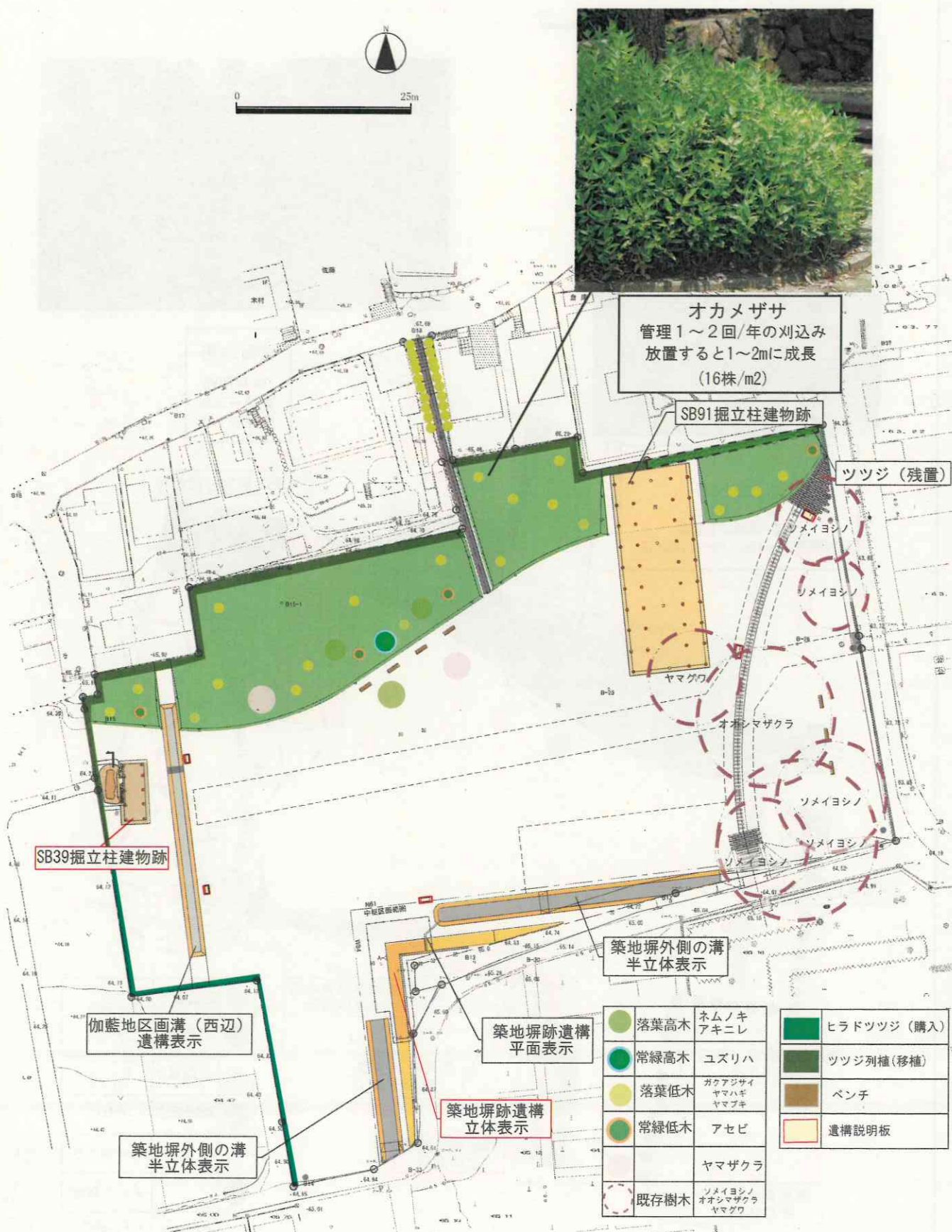
案	工 法・材 料	事例写真	評価
D	コンクリート躯体上に「塗り版築」 (セメント+骨材(砂利)+接着剤+顔料)  塗り版築 コンクリート 塗り版築 厚み10mm程度	 史跡小田原城跡 御用米曲輪北東土塁 (コンクリート擁壁+塗り版築10mm)	○ 屋根や保存 処理が不 要。 改良土版築 と比べ版築 感は落ち る。
E	コンクリート躯体上に「版築風左官仕上げ」 下塗り (ラスモルタル) 上塗り (珪藻土、砂、炭素繊維、セメント)  版築風左官仕上 ラスモルタル コンクリート 版築風左官仕上 下塗り厚み15mm 上塗り厚み3mm程度	 特別史跡百濟寺跡 ※現代工法部分 (鉄骨造、構造用合板+ラスモルタル +版築風左官仕上)	△ 塗り版築よ り強度は劣 るが維持管 理容易。

SB39掘立柱建物の表示について

課題：瓦積出土状況レプリカ展示と 掘立柱の半立体表示が、同一遺構で混在している。

資料5-3

案	工法・評価	イメージ図	事例写真	評価
A	瓦積も模式的な復元表示とする 瓦を復元制作し、模式的に積むことで、瓦積側壁の様子を表示する。		 史跡武蔵国分寺跡 講堂瓦積基壇 復元瓦積	× 全体形状や瓦の復元が必須
B	瓦積レプリカと掘立柱表示を見切り材で分離 表示手法が復元と露出展示になることから見学者の誤解を防ぐためコンクリート等で分離し説明板で補填する。 レプリカは耐久性向上のためGRC又はFRP製とする。		 国史跡上淀麿寺跡（鳥取県米子市） GRCレプリカ	○ 出土状況をリアルに表現できる



北方・推定中院地区植栽調整案



0 25m



フッキソウ

基本管理不要
草丈15~30cm
半陽~陰地にて生育
植栽間隔20~25cm (16~25株/m²)



緩衝地帯

砂利70%
割栗石30%
防草シート

SB91掘立柱建物跡

SB39掘立柱建物跡

伽藍地区画溝(西辺)
遺構表示

築地塀外側の溝
半立体表示

築地塀外側の溝
半立体表示

築地塀跡遺構
平面表示

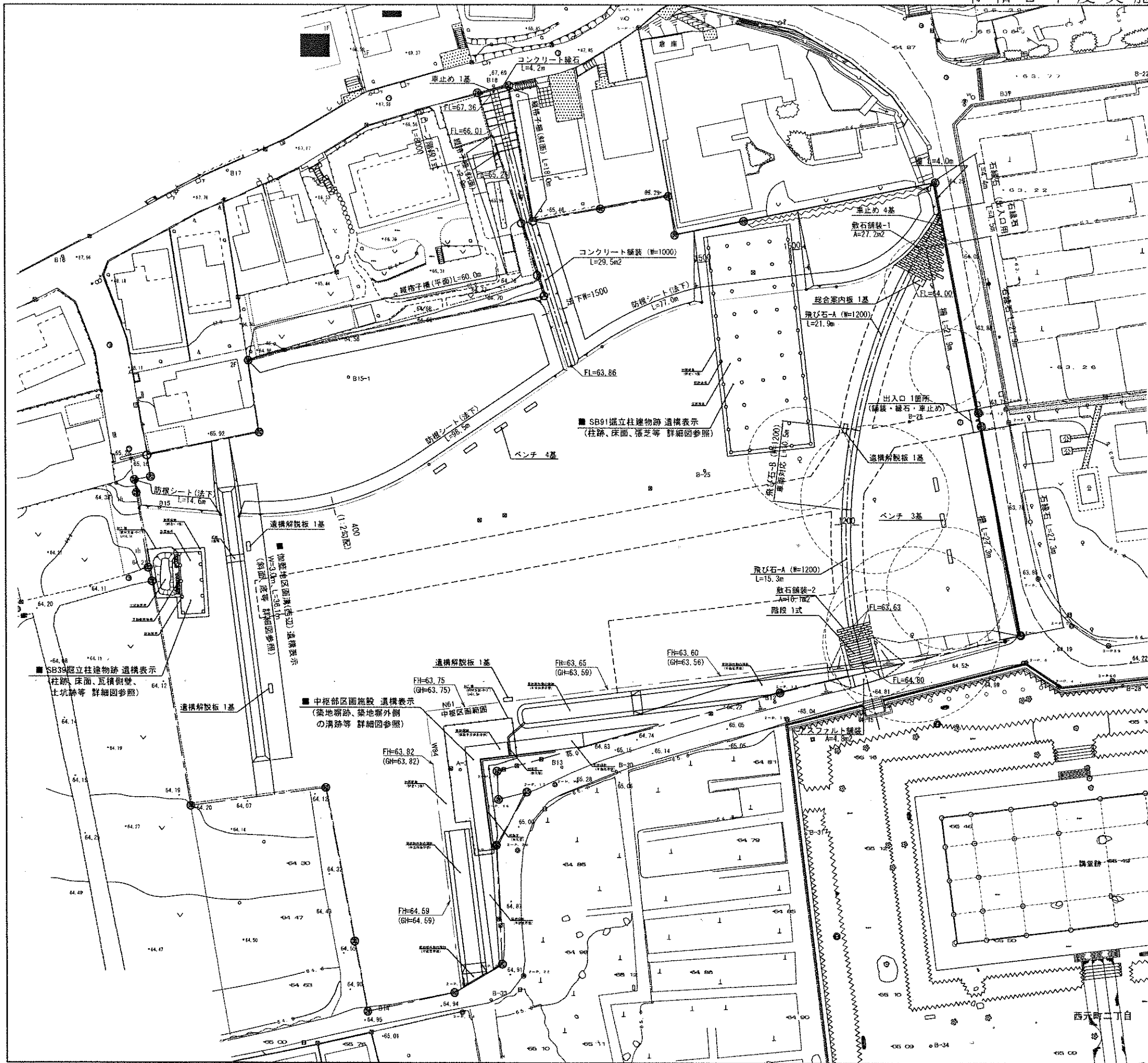
築地塀跡遺構
立体表示

	落葉高木	ネムノキ アキニレ
	常緑高木	ユズリハ
	落葉低木	ガクアジサイ ヤマハキ ヤマブキ
	常緑低木	アセビ
		ヤマザクラ
		ツツジ(移植)
	既存樹木	ソメイヨシノ オオシマザクラ ヤマグワ

電二丁目

施設平面図

S=1:250



工種	種別	規格	数量	単位	備考
基礎工	基礎掘削	基礎掘削(土留)	17.8	m	
	基礎掘削	基礎掘削(土留)	17.8	m	
	基礎掘削	基礎掘削(土留)	49.9	m	
	基礎掘削	基礎掘削(土留)	48.5	m	
	基礎掘削	基礎掘削(土留)	54.3	m	
	基礎掘削	基礎掘削(土留)	30.1	m	
	基礎掘削	基礎掘削(土留)	58.8	m	
	基礎掘削	基礎掘削(土留)	51.8	m	
	基礎掘削	基礎掘削(土留)	175.3	m	
	基礎掘削	基礎掘削(土留)	21.5	m	
	基礎掘削	基礎掘削(土留)	5.4	m	
	基礎掘削	基礎掘削(土留)	6.9	m	
	基礎掘削	基礎掘削(土留)	4.0	m	
	基礎掘削	基礎掘削(土留)	23.5	m	
	基礎掘削	基礎掘削(土留)	1.0	m	
躯体工	躯体工	躯体工	1.0	m	
	躯体工	躯体工	5.0	m	
	躯体工	躯体工	14.1	m	
	躯体工	躯体工	9.2	m	
	躯体工	躯体工	44.0	m	
	躯体工	躯体工	200.0	m	
	躯体工	躯体工	33.1	m	
	躯体工	躯体工	35.2	m	
	躯体工	躯体工	2.0	m	
	躯体工	躯体工	1.0	m	
	躯体工	躯体工	27.2	m	
	躯体工	躯体工	10.1	m	
	躯体工	躯体工	37.2	m	
	躯体工	躯体工	10.5	m	
舗装工	舗装工	舗装工	28.9	m	
	舗装工	舗装工	4.8	m	
	舗装工	舗装工	1.0	m	
	舗装工	舗装工	1.0	m	
	舗装工	舗装工	1.0	m	
	舗装工	舗装工	1.0	m	
	舗装工	舗装工	1.0	m	
	舗装工	舗装工	1.0	m	
	舗装工	舗装工	1.0	m	
	舗装工	舗装工	1.0	m	
	舗装工	舗装工	1.0	m	
	舗装工	舗装工	1.0	m	
	舗装工	舗装工	1.0	m	
	舗装工	舗装工	1.0	m	
	舗装工	舗装工	1.0	m	
その他	その他	その他	1.0	m	
	その他	その他	1.0	m	
	その他	その他	1.0	m	
	その他	その他	1.0	m	
	その他	その他	1.0	m	
	その他	その他	1.0	m	
	その他	その他	1.0	m	
	その他	その他	1.0	m	
	その他	その他	1.0	m	
	その他	その他	1.0	m	
	その他	その他	1.0	m	
	その他	その他	1.0	m	
	その他	その他	1.0	m	
	その他	その他	1.0	m	
	その他	その他	1.0	m	

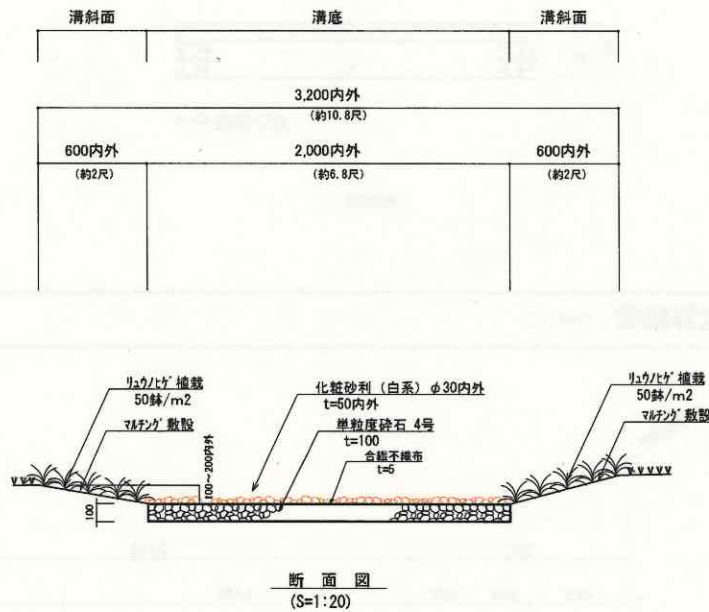
工事名	史跡式蔵院分寺跡(僧寺地区)第一期整備工事(中核部周辺地区(北方地区))工事		
施工箇所	図分寺西元町2丁目、3丁目地内		
図面名称	施設平面図	縮尺	1:250(A1) 1:500(A3)
図面番号	11/14		

[illegible]

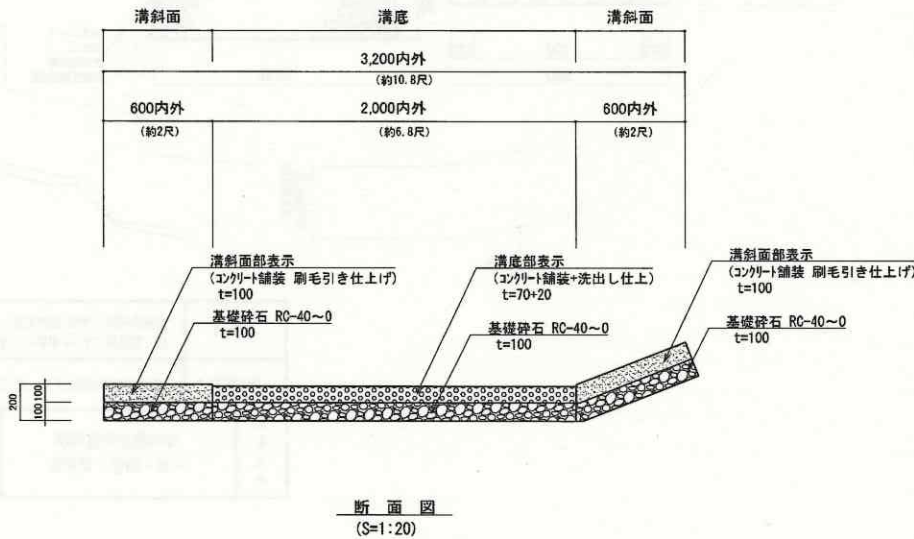
図面番号	
12	44

中枢部区画施設 標準断面図

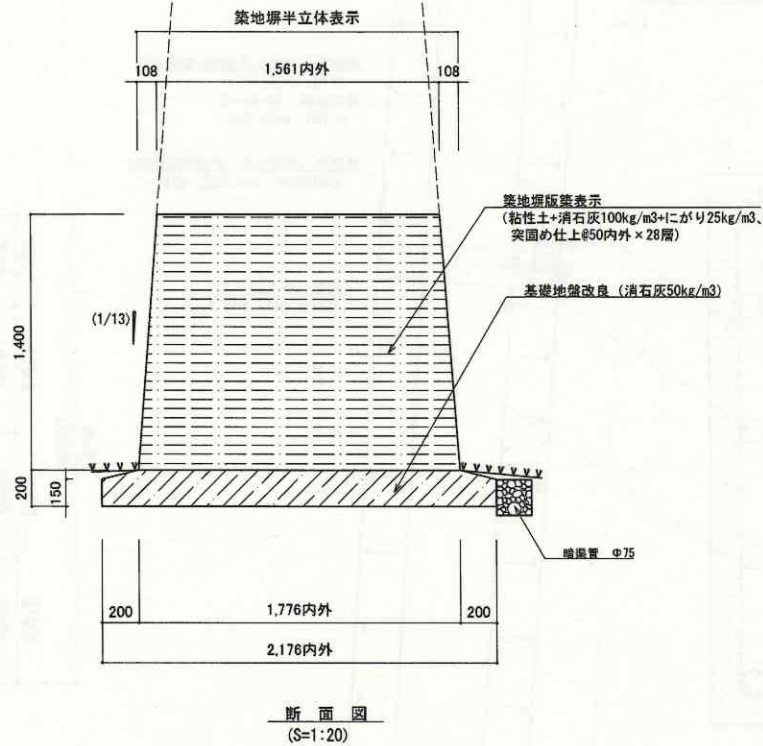
《築地塀外側の溝跡》
【半立体表示部】



【平面表示部】

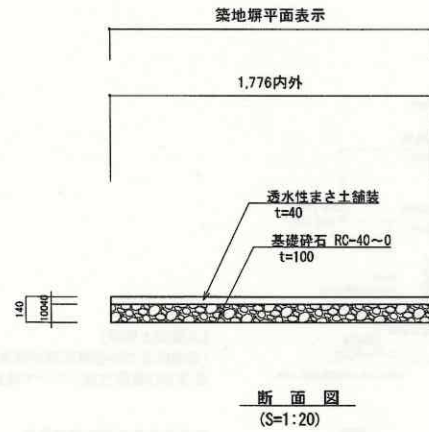


《築地塀跡》
【半立体表示部】



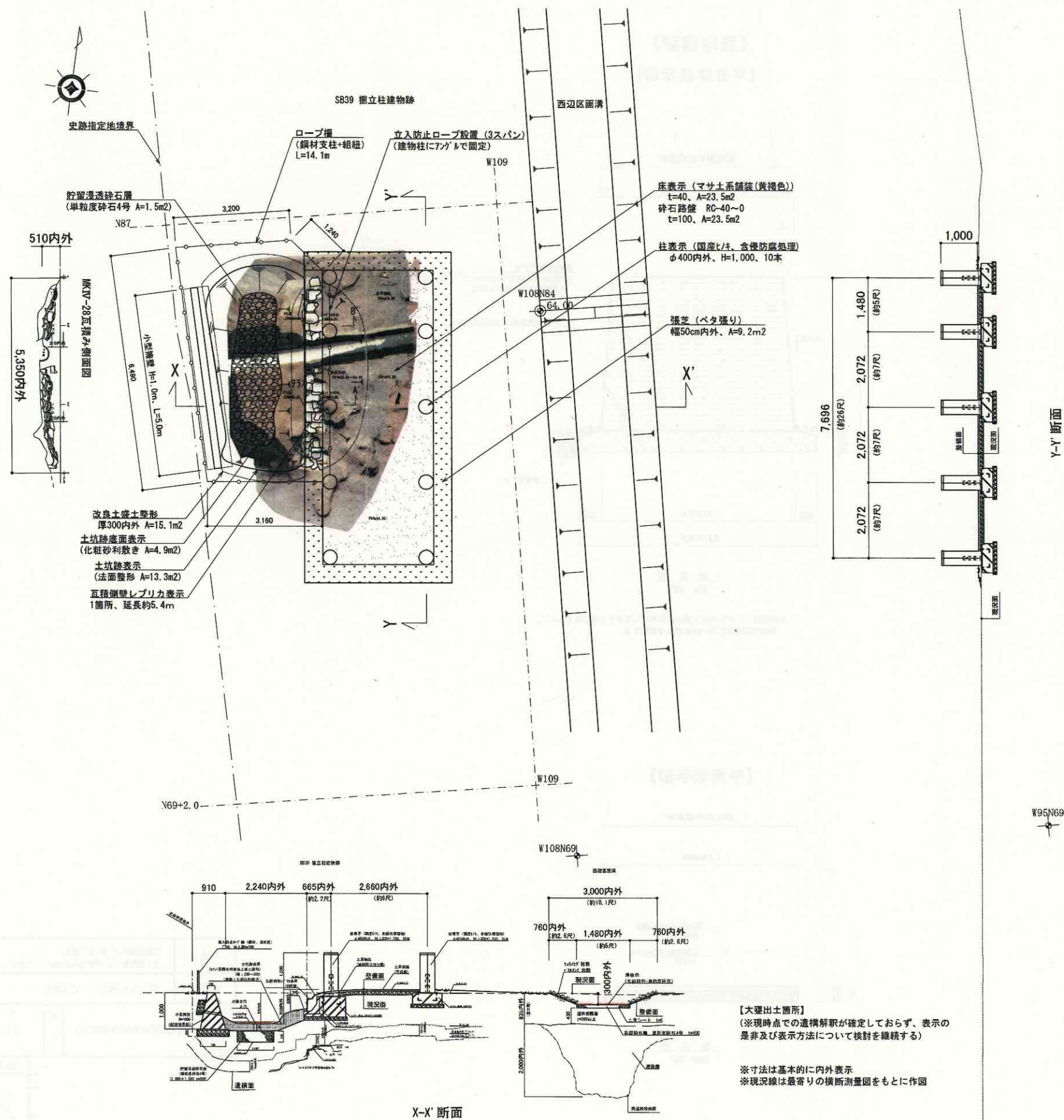
※消石灰・にがりの混入割合は着手時に使用する粘性土をもとに、現地で試験施工行い配合割合を確定する。

【平面表示部】

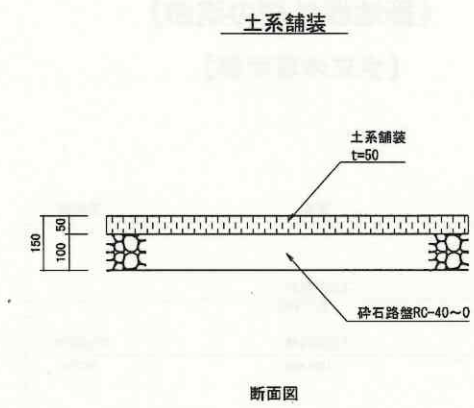


工事名	史跡武蔵国分寺跡(僧寺地区)第一期整備工事(中枢部周辺地区〔北方地区〕)工事		
施工箇所	国分寺市西元町2丁目、3丁目地内		
図面名称	中枢部区画施設詳細図(1)	縮尺	1:20

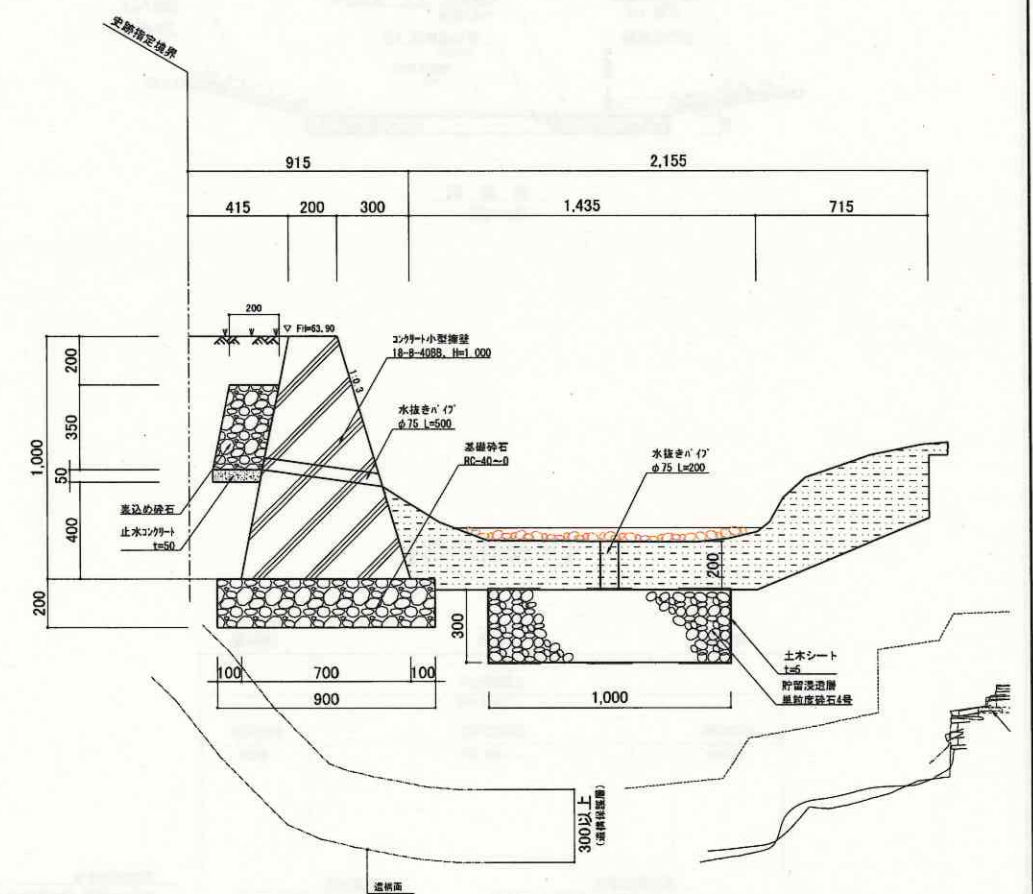
SB39掘立柱建物跡 (S=1:60)



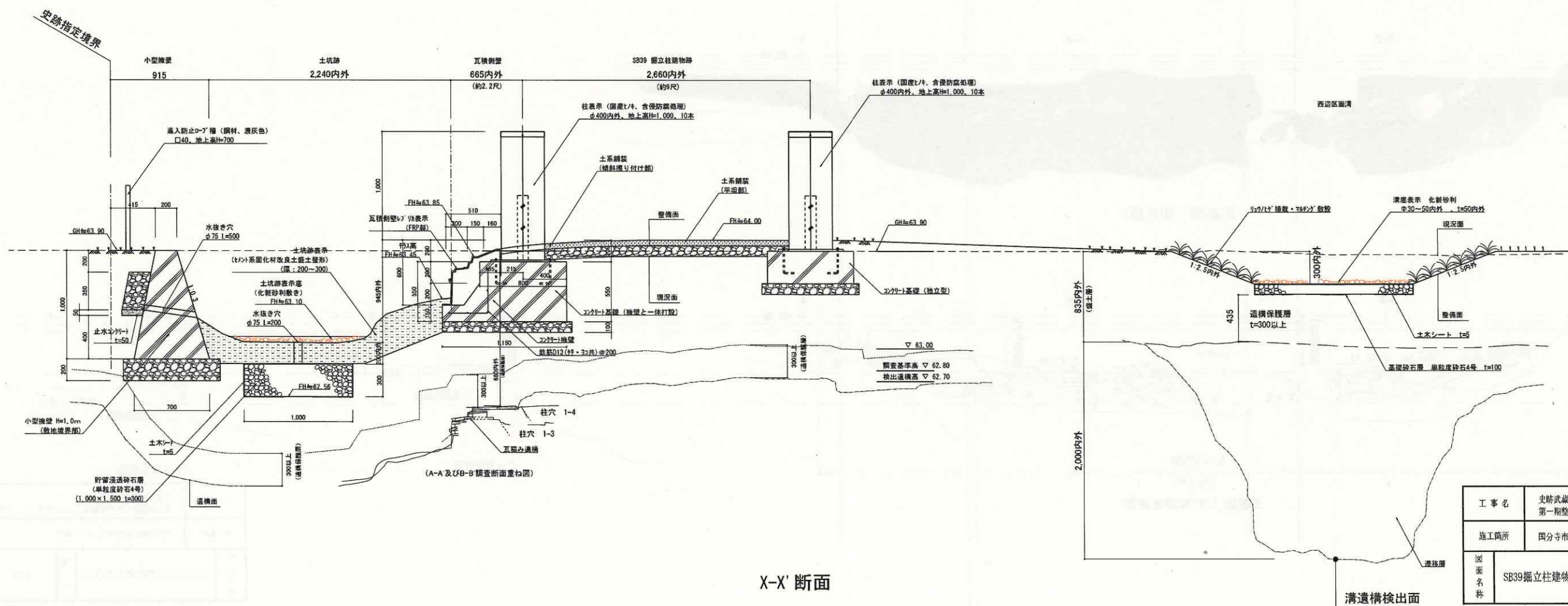
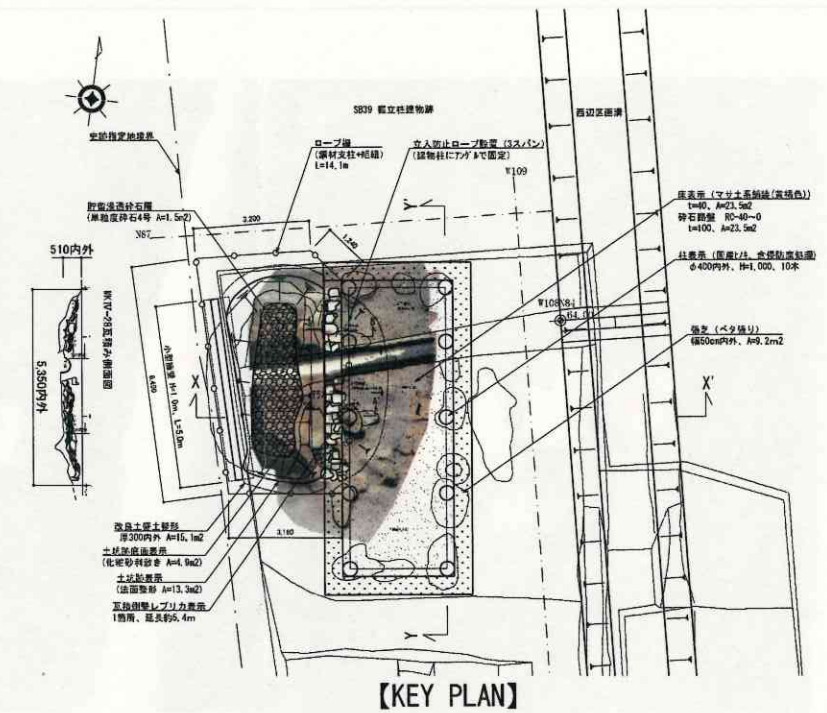
床面表示 詳細図 (S=1:10)



小型擁壁詳細図 (S=1:15)



工 事 名		史跡武藏国分寺跡(櫻井地区) 第一期整備工事(中部周辺地区〔北方地区〕)工事	
施工箇所		国分寺市西町2丁目、3丁目地内	
図面名称	SB39掘立柱建物跡 平面・断面・詳細図	縮尺	図示



※寸法は基本的に内外表示
 ※現況線は最寄りの横断測量図をもとに作図している。
 工事着手に際しては起工測量を行い確認・補正を行うこと。

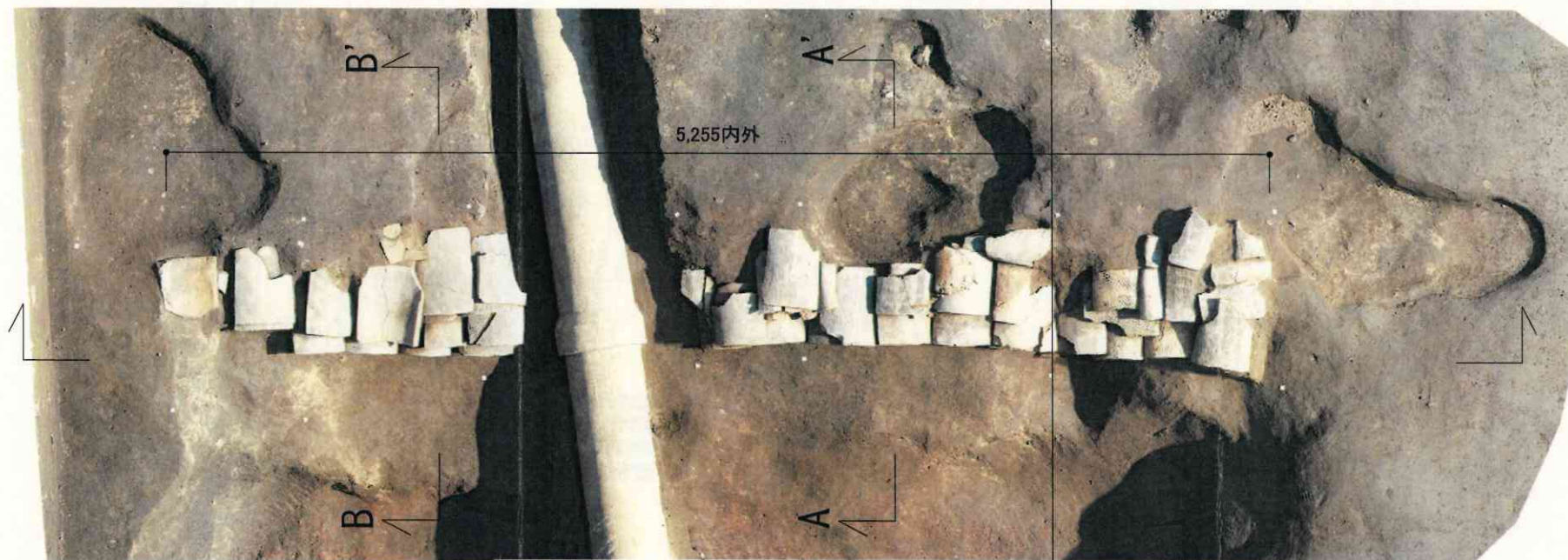
工事名	史跡武蔵国分寺跡(僧寺地区) 第一期整備工事(中核部両地区(北方地区))工事		
施工箇所	国分寺市西元町2丁目、3丁目地内		
図面名称	SB39掘立柱建物跡断面拡大図	縮尺	1:20

図面番号

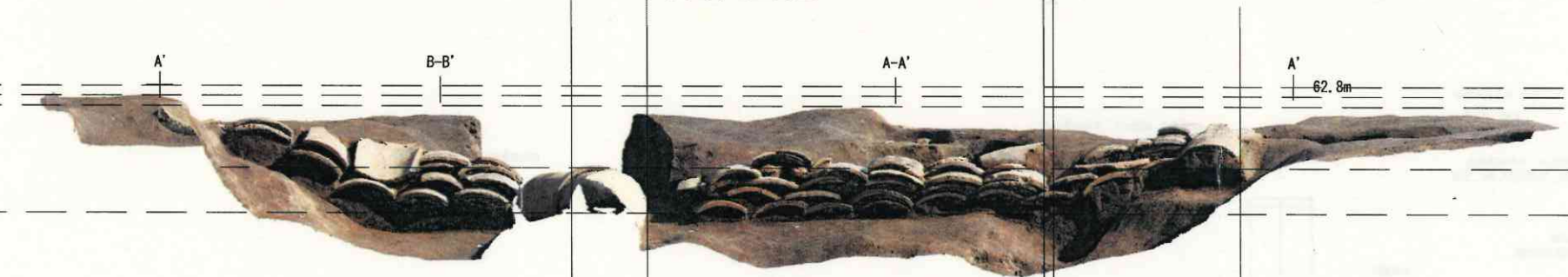
21

44

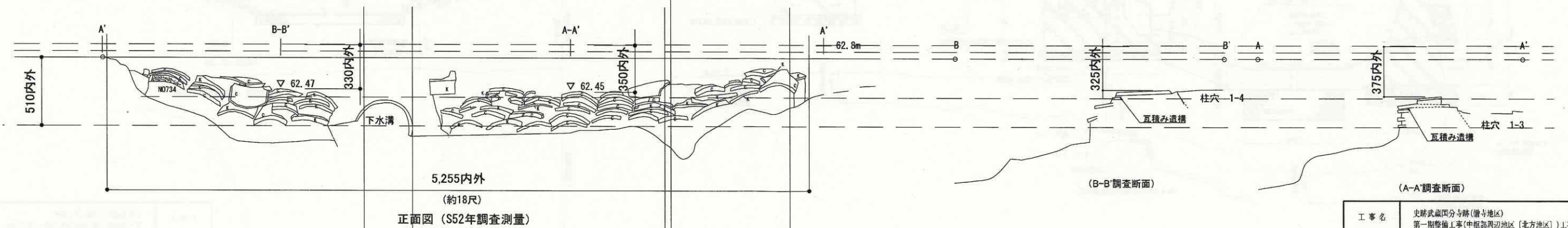
瓦積側壁 測量図



平面図 (3D測量)



正面図 (3D測量)



工事名	史跡武藏国分寺跡(僧寺地区) 第一期整備工事(中核部周辺地区〔北方地区〕)工事		
施工箇所	国分寺市西元町2丁目、3丁目地内		
図面名称	SB39掘立柱建物跡詳細図(1)	縮尺	1:15

図面番号

22
44

※寸法は基本的に内外表示

東京都遺跡調査・研究発表会

48

発表要旨



令和5年1月22日

国分寺市立いずみホール

主催 東京都教育委員会
国分寺市教育委員会

共催 (公財) 東京都スポーツ文化事業団
東京都埋蔵文化財センター

【表紙口絵】武蔵国分寺跡第 754 次調査 掘立柱建物 SB39 瓦側壁

武蔵国分僧寺講堂跡から北西へ約 100 m 離れた地点で、北方・推定中院地区の西端にあたる場所から大型土坑を付設する南北棟の掘立柱建物が 1 棟見つかりました。身舎と土坑の間には、平瓦を主体とする瓦を最大 5 枚積み重ねた側壁を有する特徴的な建物で、側壁の総延長は 5.3 m を測ります。側壁底は中心付近が窪み、高さは平均して約 30cm を測る一方で、南北の両端に向かって緩やかに立ち上がり、端部付近で瓦は 1～2 枚を配しています。

側壁に使われた瓦は、現存するものだけでも約 50 枚を数えますが、付近には崩落した瓦が散在し、一部は埋設管で破壊されているため、本来的には 70～80 枚程度の瓦を使用したものと思われます。なお、瓦は平瓦に加えて丸瓦や軒平瓦をわずかに含み、いずれも完形品や一部欠損している程度の遺存状況が良好な瓦を意図的に用いている印象です。

瓦の積み方は平瓦の広端面を西側（土坑側）、凹面を下に向け、垂直方向ではなく 10cm 程度東側にずらしながら「階段状」に積み上げていることを基調としています。一部に凸面を下に向けた平瓦や、直交に配置して積み上げた丸瓦や平瓦があり、補修した痕跡である可能性が考えられます。

（文：依田亮一）

目 次

【午前の部】

開会挨拶 10:00～10:05 東京都教育庁地域教育支援部管理課長

発表 1 10:05～10:35
東久留米市 ^{かわぎし}川岸遺跡 佐藤悠登 2

発表 2 10:35～11:05
北区 ^{じゅうじょうだい}十条台遺跡群 ^{みなみばし}南橋遺跡 山崎太郎 4

休 憩 10 分

発表 3 11:15～11:45
足立区 ^{はなはた}花畑遺跡 増田静香 6

発表 4 11:45～12:15
板橋区 ^{なりますてんじんわき}成増天神脇遺跡 ^{よこあなぼ}横穴墓群 小山侑里子 8

昼 休 み 55 分

【午後の部】

開催市挨拶 13:10～13:15 国分寺市教育委員会教育長

公開講演 13:15～14:15

『武蔵国分寺跡の史跡指定に尽力した郷土史研究者「^{いなむらたんげん}稲村坦元」の事績』 酒井清治 10

休 憩 5 分

発表 5 14:20～14:50
国分寺市 ^{むさしこくぶんそうじ}武蔵国分僧寺跡—^{ちゅういん}北方・推定中院地区— 依田亮一 12

発表 6 14:50～15:20
江戸川区 ^{かみこいわ}上小岩遺跡 高橋 亮 14

休 憩 10 分

発表 7 15:30～16:00
新宿区 ^{なんどまち}納戸町遺跡 尾田識好 16

発表 8 16:00～16:30
国分寺市 ^{なかつうしんでんぶんすい}中藤新田分水跡 ^{たいないぼり}(胎内堀) 寺前めぐみ 18

閉会挨拶 16:30～16:35 東京都教育庁地域教育支援部管理課課長代理

紙上発表 港区 ^{きやうしんげしていしやじやう}国史跡旧新橋停車場跡及び ^{たかのわかくてい}高輪築堤跡 平河内 毅 . . . 20

5 国分寺市 武蔵国分僧寺跡—北方・推定中院地区—

時代 奈良・平安時代

遺構 掘立柱建物、伽藍地区画溝

遺物 須恵器、瓦、鍛冶関連遺物

キーワード 史跡整備・事前確認調査

調査概要

国分寺市は、武蔵国分僧寺伽藍中枢部の北西に広がる北方・推定中院地区で、史跡整備のための確認調査を令和2年度に実施しました（第1図）。同地区では過去に6地点で調査が行われ、中枢部北西隅部を遮蔽する築地塀・掘立柱塀・溝のほか、古寺院地区画溝・伽藍地西辺区画溝、さらには掘立柱建物と堅穴住居が2棟ずつ発見されています。

このうち西側の掘立柱建物（SB39）は、梁間2間（2.8m）×桁行4間（7.8m）の身舎の西側に大型土坑を伴い、土坑と柱の境には延長5.5mにわたり瓦を6～7段（高さ約40cm）積み上げた側壁を配し、東側の柱筋上に須恵器大甕を埋設した特殊な建物です（第2図）。一方の東側建物（SB91）は、身舎が梁間2間（5.6m）×桁行9間以上（27.0m）におよび、東西両面に廂を有する南北棟の大型長舎建物です（第3図）。古代東国の掘立柱建物は梁間2間×桁行2～3間が平均的な規模のため、5間以上の桁行を持ち、そのうえ廂が取り付く点で、SB91は格式が高い建物であるといえます。どちらの掘立柱建物も過去の調査で存在は把握していましたが、将来的に復元整備するため再調査を行うことにしました。

まず、SB39の瓦側壁は昭和48年（1973）の下水道管敷設工事中に不時発見され、当初は僧寺西辺を画する築地塀である可能性が浮きましたが、3年後に行った発掘調査で掘立柱建物と大型土坑に挟まれた側壁と判明します。当時の調査所見によると、建物の柱穴には新旧2時期あり、古い1時期目に大型土坑・瓦側壁・須恵器大甕が伴い、2時期目になると黄褐色粘土を敷いた「土壇状遺構」上に建物は建て替えられますが、大型土坑と瓦側壁は2時期目にも継続して使用され、出土した遺物から建物の年代は9世紀中頃～10世紀中頃と捉えられました。また、周辺一帯は崖線下の湧水の通水道にあたるため、建物の性格は「水に関わる何らかの施設」で、さらに建物南側を東西に走る溝から多量の鉄滓や輪の羽

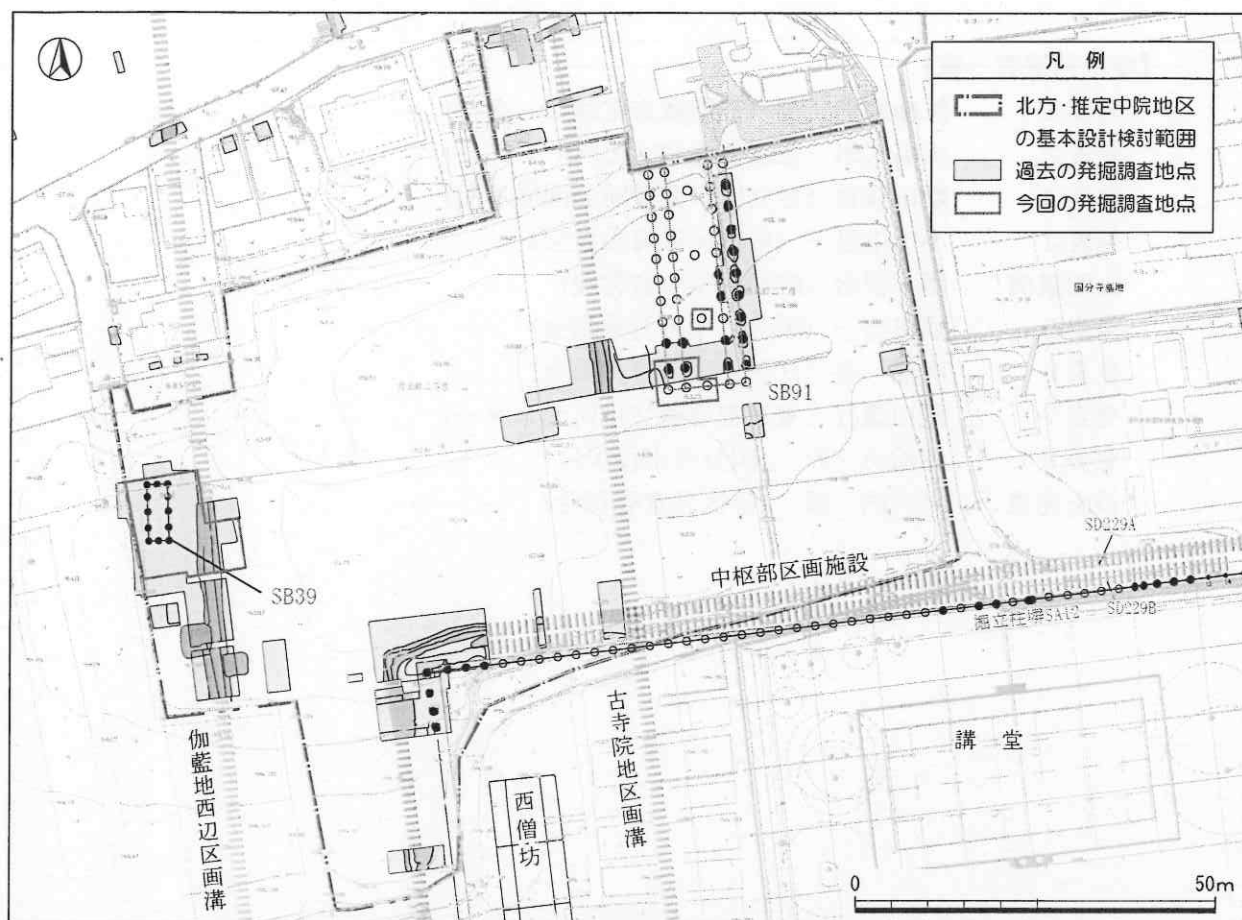
口が出土することから、SB39の直下には未調査ながら国分寺創建期段階に遡る鍛冶関連遺構が存在するであろうことが予測されました。

ところが、再調査で土層を改めて詳細に観察すると、柱穴に据え直した形跡は無く、土壇状の高まりも認められず、結果的にはSB39は黄褐色粘土を貼床した1時期の建物であるとの認識に至りました。また、埋設された須恵器大甕や側壁に使用した瓦は南比企窯跡群産の国分寺創建期段階の製品で、さらに鍛冶関連遺物も建物周囲全体に分布がおよんでいるため、建物の年代や性格は8世紀の鍛冶工房である可能性が考えられました。

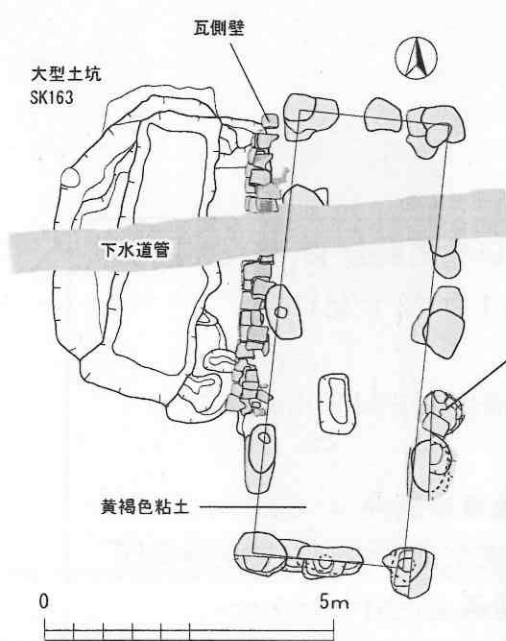
次にSB91は、昭和63年（1988）の調査で建物東側と南側に並ぶ柱列の一部を検出しました。柱穴の掘り方は長さ2.0m×幅1.2～1.4mの長方形を基調とし、深さ約1.0mの柱穴に据えられた柱痕は径40cm前後の太さで、一部の柱穴には2～3時期の建て替えを伴うことが観察されています。また、桁方向の柱間は3.0mの等間隔、梁間は身舎部で2.8m、身舎一廂間で2.4mを有します。建物はさらに北側へ延び、対する史跡公有地に含まれる南側は追究が不十分であったため、当時の調査範囲と一部重複させるかたちで建物南西側に調査区を設定しました。

その結果、ここでも昭和48年（1973）に敷設した下水道管が東西に横切り、その埋設管で並列する柱穴3基が串刺し状に壊されている状態で検出されましたが、柱穴はさらに南側へは展開せず、発見された柱穴列がSB91の南端を示すものと判断されました。

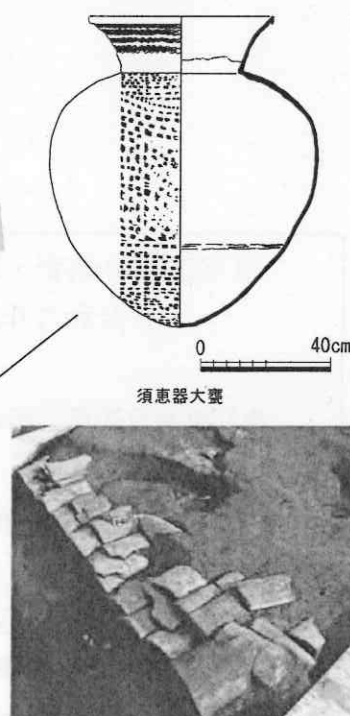
古代寺院で、このような長舎建物といえば僧坊が思い浮かびます。調査区から南西に約50m離れた墓地区内には礎石が点在し、大正11年（1922）に東京府が行った実地踏査で僧坊に比定されています（現在の西僧坊）。SB91は掘立柱建物ですが、礎石建て西僧坊の前身建物である可能性を鑑み、調査区の北東側に追加で小トレンチを設定したところ、柱穴が明瞭に検出されました。仮にSB91が梁間2間×桁行3間で1房を構成し、5房が連結する長屋状の建物と想定しますと、僧寺東僧坊や尼寺尼坊とほぼ同規模・構造の建物に復元できます。今後、他国の国分寺の事例と比較しながら検証を進めて参ります。



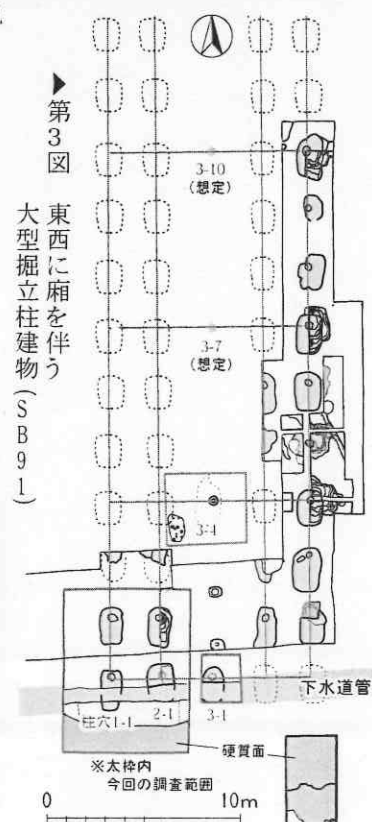
第1図 僧寺北方・推定中院地区の調査状況



第2図 大型土坑・瓦側壁を伴う掘立柱建物 (SB39)



第4図 SB39 瓦側壁



第3図

東西に廂を伴う
大型掘立柱建物 (SB91)

【要旨執筆者一覧】

発表 1	佐藤悠登（東京都埋蔵文化財センター）
発表 2	山崎太郎（東京都埋蔵文化財センター）
発表 3	増田静香（足立区伊興遺跡公園展示館）
発表 4	小山侑里子（板橋区教育委員会）
公開講演	酒井清治（駒澤大学名誉教授）
発表 5	依田亮一（国分寺市教育委員会）
発表 6	高橋 亮（江戸川区教育委員会）
発表 7	尾田識好（東京都埋蔵文化財センター）
発表 8	寺前めぐみ（国分寺市役所）
紙上発表	平河内 毅（港区教育委員会）

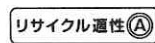
東京都遺跡調査・研究発表会 48 発表要旨
令和 5 年 1 月 22 日発行

東京都教育委員会印刷物登録令和 4 年度第 60 号

編 集 東京都教育委員会
（公財）東京都スポーツ文化事業団
東京都埋蔵文化財センター

発 行 東京都教育委員会

印 刷 株式会社まこと印刷



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



古紙・カルブ配合率60%以上紙を使用しています